

未来を思考する

「モノづくり」と「ひとづくり」

エンジニアの自信と  
世界へ送り出す

より良き未来  
の可能性を信じる  
己の  
勇氣

可能性  
1歩を踏み出した  
踏  
情熱

100年  
を超える歴史  
技術・研究  
世界最先端  
イン  
タラクティブ

変化  
プロの自信と  
エンジニアの  
世界へ送り出す

100年  
を超える歴史  
技術

大学概要  
2018

# 2018 KYUSHU INSTITUTE of TECHNOLOGY

## Contents

- 02 学長メッセージ
- 03 基本理念
- 04 特徴的教育の取組
- 05 戦略的研究ユニット
- 07 グローバルエンジニアの育成
- 10 学生プロジェクト
- 11 沿革
- 13 組織図
- 15 役職員名簿
- 16 職員数
- 17 学生数
- 19 入学者状況・奨学金受給状況
- 20 外国人留学生在学状況
- 21 国際交流協定校
- 23 進路状況
- 25 外部資金
- 27 予算・決算
- 28 図書館・ミュージアム・記念館
- 29 福利施設
- 30 サテライトキャンパス・海外教育研究拠点
- 31 戸畑キャンパス
- 32 飯塚キャンパス
- 33 若松キャンパス
- 34 交通案内

学長メッセージ

Message from the President

## 工学系人材の育成と 知の創造で未来社会へ貢献

九州工業大学 学長

尾家 祐二

Yuji Oie

本学の前身である明治専門学校は、実業家である安川敬一郎氏が巨額の私財を投じて設立されました。本学は、開校から100年以上の間、建学の精神である「技術に堪能なる士君子」の養成の実践により6万人以上の工学系人材を世に送り教育および研究力を駆使して、学術の進展につながる知の創造、産業界の競争力強化ならびに地域の発展に貢献してきました。

一方、近年の科学技術の進歩は目覚ましく、多くの発見・発明がなされ、数知れない技術が生み出されました。そして、それらの成果は加速度的な速さで、社会へ普及し、生活に浸透しています。例えば、1969年に、米国のたった4つの組織が極めて遅い速度の通信回線で繋がった実験的ネットワークが、現在のインターネットの始まりです。そのごく小さなネットワークが世界中を網羅するネットワークとなり、今やコンピュータ、家電、カメラ、センサー等様々な機器が繋がるようになりました。2020年には、その数は500億個以上とも予想されており、私たちの生活や社会はさらに大きな変化を迎えるでしょう。このように、科学技術は私たちの社会生活と密接に繋がっており、その役割の重要性はさらに増えています。

九州工業大学は、この目まぐるしく変化する社会において、複雑な課題の解決に貢献し続ける工学系人材の育成を続けています。専門的な知識・スキルはもとより、それをグローバルな社会において活用し続けることができるために必要な能力として、多様な文化の受容、コミュニケーション力、自律的学習力、課題発見・解決力(探究する力)、デザイン力(エンジニアリング・デザイン)を取り上げ、その涵養に注力しています。そして、そのための多様な学習プログラムの提供と学習環境の整備を行っています。2014年度から推進している海外派遣プログラムには、産業界との良好な関係をもとにした海外企業でのインターンシップも含め1年間(2017年度)に600名を超える学生が参加しています。海外渡航を経験した学生は、帰国後、学びに対する考え方や行動までもが変わり、大きく成長していきます。

さらに、大学は未来を切り拓くための知の創造の場でもあります。知の創造としての研究活動には、学術の発展のための研究と社会の発展のための研究という側面があります。本学では、環境・エネルギー、宇宙、LSI、ネットワーク、ロボット等10の重点プロジェクトセンターを設置し、多様な研究活動を推進しています。さらに、大学内において長期にわたり企業の研究者と共同で研究を実施することができる制度を新たに設け、現在(2018年5月)、5つの共同研究講座が開設されています。

九州工業大学は、教育研究の多様な活動を学外の皆様にご理解して頂くために様々な情報発信、対話および協働の機会を設け、学内外、国内外の信頼のネットワークを築き、教育研究の内容をさらに充実させます。そして、学びのため、知的創造を行うために、高校生や企業、地域の方々が訪れたいくなる開かれたキャンパスの実現を目指していきます。

## 基本理念

九州工業大学は、わが国の産業発展のため、品格と創造性を有する人材を育成します。

## 特徴的教育の取組

## 基本方針

### 教育

開学以来の教育理念を基本とし、志(こころざし)と情熱を持ち産業を切り拓く技術者・知的創造者を養成するため、質の高い教育を行います。

### 研究

研究活動を常に活性化し、科学に裏付けられた融合技術や境界領域の創成を行うなどにより多くの優れた研究成果を創出します。

### 社会との連携

教育・研究で培った知の公開と価値創造との創りを推進し、技術革新と社会を支えるイノベーションにつなげ、地域社会との連携と調和に努めます。

### 運営

社会に対する大学の責任を重視し、大学に係るステークホルダーに対する説明責任を果たせる経営を行います。

## 教育目標

### 工学部 大学院工学府

#### 戸畑キャンパス

「ものづくり」の基本を備えた技術者の養成

「ものづくり」を基盤とした工学系分野において、豊かな教養、技術者倫理及びコミュニケーション力を備え、科学技術の進歩に対応できる工学基礎力・専門技術力を有し、国際的に活躍できる専門技術者の養成を目標としています。

○博士前期課程では、工学部の素養と能力に加え、深い専門知識とそれに基づく課題発見・設定・解決能力、並びに多様な文化の理解に基づく国際的コミュニケーション能力を有する人材の養成を目標としています。

○博士後期課程では、博士前期課程の素養と能力に加え、複数分野の深い専門知識を有し、異分野を融合してイノベーションを創出でき、国際協働プロジェクトにおいてリーダーシップを発揮できる人材の養成を目標としています。

### 情報工学部 大学院情報工学府

#### 飯塚キャンパス

情報を基盤に国際的視野を持つ高度技術者の養成

情報を基盤とする科学技術分野において、高度な専門技術を身につけて情報化社会をリードし、国際的に通用する能力に加え、科学技術の進歩に対応できる基礎技術力を有し、先端的な技術開発を推進できる専門技術者の養成を目標としています。

○博士前期課程では、情報科学・工学の知識を基礎とし、問題を発見し解決する能力及び論理的なコミュニケーション能力を身につけた上で、各専門分野で活躍できる能力を有する人材の養成を目標としています。

○博士後期課程では、博士前期課程の素養と能力に加え、実践的な研究開発の経験に基づき、深い専門知識と高い志をもって自立して活躍できる能力を有する人材の養成を目標としています。

### 大学院生命体工学研究科

#### 若松キャンパス

生命体の優れた機能を活用する工学系高度技術者の養成

分野融合型の先進的な研究及び分野横断型の教育を行い、社会と連携することにより、社会に対する深い理解と知識を持ち、実践的に活躍できる高度専門技術者の養成を目標としています。

○博士前期課程では、現代社会のニーズである省資源、省エネルギー及び環境調和のための工学技術、並びに人間や社会を支える知能ロボット、知的情報システム、福祉システム等を実現するため、生物や人間の持つ機能・原理・構造を解明し、それらを工学的に実現・応用することを通じ、人々と連携して新しい社会の創造に貢献できる能力を持つ人材の養成を目標としています。

○博士後期課程では、博士前期課程において習得する専門知識に加え、研究・技術分野の動向を常に注視し、革新的成果の実現を図る能力を有する人材の養成を目標としています。

## 01 社会と協働する教育研究のインタラクティブ化加速パッケージ

～技術者のグローバル・コンピテンシー獲得へ～

→詳しくはP7～P9

社会が求める技術者のグローバル・コンピテンシー(GCE)の策定・可視化及び国際通用性のある人材養成のための教育プログラムを構築し、アクティブ・ラーニング、グローバル化対応教育を強化します。重点的な教員配置により環境関連工学等の強みをいかした大学院改組の実施とともにガバナンス改革に取り組み、海外教育研究拠点の強化等による共同研究・協働教育のグローバル化を加速します。

## 02 国際連合と連携した衛星開発能力構築のための宇宙工学国際コース

宇宙工学国際コースの目的は、九州工業大学の世界的にもユニークな宇宙工学関連教育・研究資源を活用し、日本人学生のみならず世界中から優秀な人材を獲得して、豊かな異文化コミュニケーション能力と幅広いシステム工学的思考力をもったグローバル技術者を世界に輩出することにあります。宇宙工学国際コースは、以下の4項目から成り立っています。

- 各専攻の指導教員の元での修士論文または博士論文に関する研究
- 宇宙環境試験等の実践を通じたOn-the-Job Training
- 留学生・日本人の共同作業で宇宙プロジェクトを行なうProject Based Learning
- 英語による体系だった宇宙工学関連の講義



## 03 需要創発コースの設置とその学習環境としての工房創出事業

学生達が研究者・技術者として活躍する場はグローバル化し、多様化しています。その中で、本学の卒業生はニーズを作り出すイノベーターたること、加えて、リーダーとしてプロジェクトや企業を率いねばなりません。ここに至り、従来の高度な技術シーズの修得に加えて、ニーズを迅速に掴み、その解決策を提案できる能力も学修する必要が生じました。そこで、従来の専門性の高い講義に加えて、チームで演習を行うことができるコース(需要創発コース)とその活動の場(需要創発工房)を設定しました。本コースでは、企業や大学等にクライアントとして、実際に問題となる課題を提案してもらいます。学生達は、教員をメンターとしたチームを組み、1年半の活動の中で、示された課題を含むニーズを抽出し、そのニーズの解決方法を提案し、具体的にプロトタイプを作成します。毎年、50名前後の学生が本コースを選択し、開発デスバレーの苦しみを乗り越え、成果物を生みだし、公開の最終プレゼンテーションで評価を受けます。

## 04 カーエレ・カーロボ連携大学院

北九州学術研究都市にキャンパスを構える九州工業大学、北九州市立大学、早稲田大学は、国公私立の連携により北九州市および公益財団法人北九州産業学術推進機構(FAIS)の支援を受けて、自動車の基本技術を学ぶ『カーエレクトロニクスコース(カーエレコース)』と、自動車・ロボットの知能化技術を実習主体で学ぶ『インテリジェントカー・ロボティクスコース(カーロボコース)』を開設しています。両コースでは、産業界のニーズに応じて、自動車とロボットの分野で次世代を担うリーダーとしての高度専門人材を育成します。平成29年度からはカーロボコースに、人工知能を重点的に学ぶ『AIサブコース』も設置しました。

## 05 先進的支援ロボット工学の国際展開を担う人材育成プログラム

産業や医療福祉のさまざまな問題を解決するための先進的支援ロボット技術(AAR)を、留学生と日本人学生が共同で学習・研究します。留学生と日本人学生が、言葉の壁を乗り越えながら共に学び、国際化・海外拠点化を目指す企業にAARに関するグローバルエンジニアを輩出することを目指しています。



着衣を介助するロボット

ロボカップ@ホームで活躍する「Exi@」開発の様子

### Our Vision and Mission

「技術に堪能なる士君子」の養成を目指して

本学の前身である明治専門学校は、教育のために私財を投じた実業家安川敬一郎氏の崇高な志と、それに賛同した山川健次郎先生の多大なる尽力によって、創建されました。

その理念は「技術に堪能なる士君子」、すなわち技術に精通すると共に、道義心のある人格者を養成すること。単に学問・技術を授けるのではなく、人間形成に重点を置いた教育を志しました。そのため、一般教養の習得と精神面の練磨を目的とした4年制・全寮制にこだわりました。

この理念こそが、開学以来100余年に渡り、我が国の産業の発展に貢献する優れた技術者を輩出し続け、今日の九州工業大学を支えているのです。



九州工業大学の生みの親  
安川 敬一郎氏  
1849～1934年



九州工業大学の育ての親  
山川 健次郎氏  
1854～1931年

History

# 戦略的研究ユニット

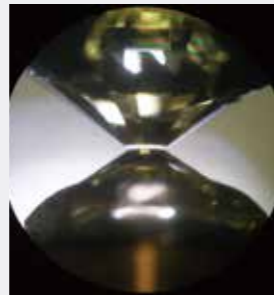
**九** 州工業大学の長期的な研究力強化のためには、本学の強みや特色ある研究分野の研究活動の強化により、核となる革新的な研究拠点の設置が必要となります。また、研究のさらなる発展のためには次世代を担う若手研究者の自立と成長が不可欠です。このため、学内の研究支援組織であるイノベーション推進機構に「戦略的研究推進領域」を立ち上げ、この領域内に本学のイノベーション戦略とその実施拠点となる「戦略的研究ユニット」を配置することとしました。「戦略的研究ユニット」は、部局を超えた分野融合による新領域を形成し、革新的な研究活動を実践する場となるとともに、研究ユニットに次代を担う若手研究者を参画させ、彼らの育成にも取り組むこととされています。

## 01 高温超伝導体のさらなる転移温度向上を目指した物質設計ユニット

代表: 美藤正樹 教授

超伝導研究に関する先駆的かつ特色のあるシーズをもとに、高温超伝導体の機能性の向上、超伝導発現機構の解明、戦略的な新奇超伝導物質探索、物性評価技術の向上、高温超伝導体創出のための設計指針の提案などの研究を推進し、超伝導転移温度向上という物理学の難題に取り組みます。

- 高温超伝導体のバルク材料、薄膜の合成及び評価 (物質工学研究系 松本・堀出・アロク)
- 新奇超伝導物質合成 (電気電子工学研究系 松平、基礎科学研究系 田中)
- 高温超伝導体の高圧物性評価 (基礎科学研究系 美藤)
- 高温超伝導体の精密電気抵抗測定 (基礎科学研究系 出口)
- 高温超伝導体に対する第一原理計算 (基礎科学研究系 中村)
- 高温超伝導機構の基礎理論 (基礎科学研究系 渡辺)



高圧力発生用  
ダイヤモンドアンビルセル



薄膜製造用  
パルスレーザ蒸着装置

## 02 MSSCを高度活用した未来創生型環境・バイオアプロプリエイトテクノロジー開発若手研究ユニット

代表: 前田憲成 准教授

九州工業大学の海外教育研究拠点であるMSSCを高度に活用して、マレーシア・ポルトガル・メキシコ・韓国等の研究機関との国際共同研究



前田 憲成  
大学院 生命体工学研究科

微生物バイオテクノロジーと微生物生態に関する国際共同研究



城崎 由紀  
大学院 工学研究科

新規バイオマテリアルに関する国際共同研究

マレーシア、米国、ポルトガル、メキシコ、韓国等の研究機関との国際共同研究



池野 慎也  
大学院 生命体工学研究科

ナノ材料またはナノセンシング技術に関する国際共同研究



安藤 義人  
イノベーション推進機構

ケミカルリサイクルに関する国際共同研究

## 03 スマートライフケア社会創造ユニット

代表: 柴田智広 教授

限られた人的資源の下で、生活の質や個人の尊厳も考慮した最適な予防医療や介護予防を実現するため、ICT/IoT やロボティクスを最大限に活用するスマートライフケア社会の創造を目指します。種々のセンサから得られるビッグデータを解析し、人々への行動変容支援や業務担当者の最適なプロセス管理支援などを行うアルゴリズムや情報システムを、現場で実証的に評価しつつ研究開発します。

飯塚 Mario Köppen	若松 柴田 智広	若松 吉田 香	若松 井上 創造	若松 堀尾 恵一	戸畑 小幡 博基
画像認識	ロボティクス	感性情報処理	センサ行動認識	機械学習	ニューロリハビリテーション
最適化	社会的知能	インタラクション	ビッグデータ	データマイニング	神経生理学
機械学習・人工知能・ロボティクス		中嶋 宏(客員教授) ユビキタスヘルスケア		中島 直樹(客員教授) 医療情報	

## 04 マルチスケール化学による革新的光エネルギー・物質変換材料の創製ユニット

代表: 中戸晃之 教授

材料化学の視点から、太陽エネルギー変換や物質変換を行う新しい材料システムを創出します。複数成分を分子からマクロに至る多階層で動的に集積した構造を設計し、構成成分間のコミュニケーションによる機能創発によって、外部条件に適応して機能を最適化したり、複数の目的物質をオンデマンドで作分けたりするなどの、革新的機能をもつ新素材の具現化を狙います。

機能要素設計 (nmレベル)

動的階層構造構築 (μm以上レベル)

機能要素傾斜集積

機能発現材料応用

中戸 晃之

横野 照尚

北村 充

村上 直也

毛利 恵美子

## 05 高信頼設計エッジ・クラウド・ネットワーク研究ユニット

代表: 塚本和也 准教授

九州工業大学がニューヨーク市立大と締結した「学生及び教員の研究 / 教育面での交流に関する覚書 (MOU)」を高度に活用して、高い信頼性を有するIoT/CPS 実現のためのエッジ・クラウド・ネットワーク基盤技術を確認します。

高信頼設計エッジ・クラウド・ネットワークの概念図

- 生物模倣型 IoTデバイス/VM侵入検知手法 (情報工学研究科 大西、光来)
- 仮想適応コンピューティング・ネットワーク (情報工学研究科 鶴、光来、川原、柴田)
- 膨大なエンドデバイスのためのレジリエンス資源アクセス手法 (情報工学研究科 塚本、工学研究科 池永、野林)

塚本 和也  
大学院 情報工学研究科

ニューヨーク (CCNY) のテストベッド環境

# Global Competency for Engineer グローバルエンジニアの育成

## GCE Global Competency for Engineer

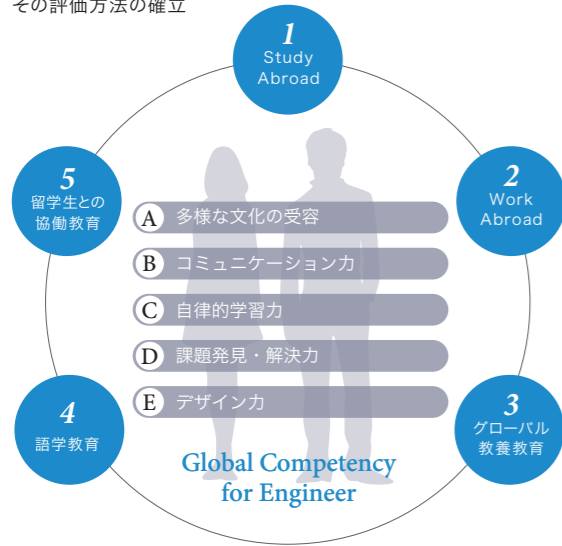
九州工業大学では、グローバル化した社会で活躍する技術者(グローバルエンジニア)に必要な能力(要素)をGCEと定めて、それらを育成するための様々な取り組みを実施しています。

**技** 術者は、グローバル化した社会の中で、自らが持つ知識とスキルを持続的に成長させる姿勢を持ち、様々な文脈において、それらを活用して、変化し続ける高度で複雑な課題の解決に取り組む姿勢を持ち続けることが期待されます。そのような行動特性としてのグローバル・コンピテンシー(GCE: Global Competency for Engineer)を有した技術者(グローバルエンジニア)を養成する教育パッケージを開発・推進します。そのためには、卒業時、修了時における人材像をGCEの視点で明示し、その育成のために多様な学習機会の促進と学習環境の整備を行う等、以下のように、多面的、統合的な取り組みを組織的に実施します。

### 3つのCの取り組み

#### 01 Competency

GCEの要素および目標とする達成レベルの設定およびその評価方法の確立



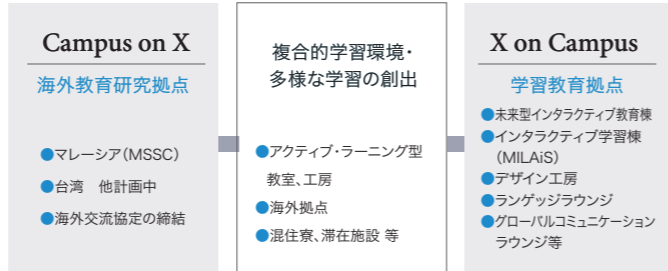
#### 02 Circuit Program

GCEを獲得するための教育プログラム(Circuit Program)の開発及びそれらを効果的に実施するための制度設計

- 教育プログラム及び教育制度を整備
- 6年一貫教育・クォーター制の導入
  - 海外派遣プログラムの拡充
  - 事前・事後学習のプログラム化

#### 03 Learning Complex

GCE教育・学習を効果的に行うための複合的学習環境の整備



#### 01 Competency GCEの定義と評価方法

グローバルに活躍する技術者に求められるコンピテンシー(GCE)の要素を、



と定義づけ、これらの能力を身に付けたことを評価し、可視化する方法について、ルーブリックの策定やシステムの開発検討を進めています。

5つの各要素の効果的な学習(獲得)のため、教養科目や語学の教育改革成果を基礎に、

- 1 海外学習体験(Study Abroad)
- 2 海外就業体験(Work Abroad)
- 3 グローバル教養教育
- 4 語学教育
- 5 留学生との協働学習

を5つの柱として、GCE教育を実施します。

GCE

#### 02 Circuit Program 教育プログラムの開発と制度設計

学生が、GCEを獲得するために、様々な教育プログラムを提供します。海外派遣プログラムでは、まず、学習目標を設定し、参加する学生に対して留学に対する意識・目的を明確にします。派遣前の事前教育により、海外生活に対する心構えに加え、海外での学習に向けた準備教育を実施します。派遣後は、向上した学習意欲をフォローアップするための講義、振り返り学習や成果報告会を実施し、最終的に、プログラム全体を通した到達度の評価を行います。このように、派遣前から事後評価までを一連のパッケージにとらえ、効果的な海外派遣を実践します。学生は、サーキット・トレーニングのように、いくつかのプログラムを経験し、継続的な学習を積み重ねることで、より高度なGCEを獲得することが期待されています。

##### First Step

##### タイ研修プログラム

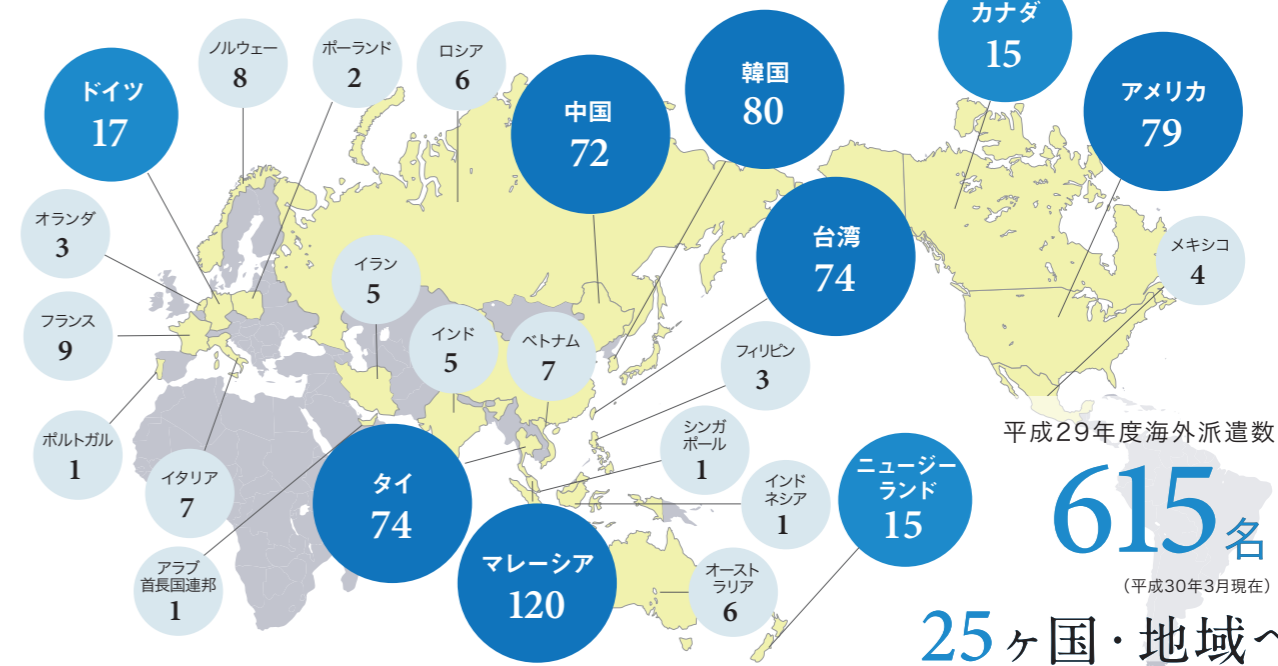
本学では、学部入学後の早い段階でのグローバル学習経験が重要であると考え、低学年を対象とした海外派遣プログラムを平成25年度から実施しています。工学部・情報工学部の両学生を対象とした全学的なプログラムとして、多文化の受容・協働学習をキーワードとしたグループ学習やパティ・プログラムを実施しています。



##### 海外派遣プログラム



#### Study Abroad & Work Abroad



# Global Competency for Engineer グローバルエンジニアの育成

## 03 Learning Complex 複合的学習環境の整備

学生が主体的に学ぶ意識を醸成し、GCE教育を効果的に実施するための多様な学習環境(複合的学習環境)を整備しています。キャンパスの中に学習環境を整備する(X on Campus)とともに、学外にも学びの場としての「キャンパス」を整備し(Campus on X)、様々な形態の学習を支援します。

### X on Campus

●戸畑キャンパス ●飯塚キャンパス



#### ●●MILAiS(ミライズ)

机を自由に組み合わせてレイアウトでき、固定的な教壇(教卓)を設けず、講義室の前方・後方をあえて示していないなど、グループワークを取り入れた講義を実施できるようデザインされています。多画面対応のプロジェクトor投影機などのICT機器も効果的に配置されています。

GCE要素  
コミュニケーション力・自律的学習力



#### ●プロジェクトラボトリ

課題解決型の授業を実施するために開発された講義室です。PBL(Project-Based Learning)教育をより効果的なものにするために、人間工学的観点に立ち、デザインされました。様々なカタチのカラフルな椅子や机が木のフローリングの上に置かれ、これらは自由に移動させることができます。ここでは、靴を脱いで木のぬくもりを感じながら過ごし、リラックスしてディスカッションを行うことができます。

GCE要素  
課題発見/解決力・コミュニケーション力・自律的学習力



#### ●●デザイン工房

学生一人ひとりが思い描く「こんなものを作りたい」というアイデア。それを形あるものとして創ってみて、創ったものを試してみ、さらに次のアイデアにつなげます。デザイン工房は、3Dプリンターやグループワーク用の機材を取り揃えた、みなさんの「創造」の場です。

GCE要素  
デザイン力・自律的学習力・課題発見/解決力



#### ●●ラーニングcommons

グループで相談しながら学習することができるスペースです。空間を自由に区切って利用できるスマートインフィル内では、研究室のゼミやPBLなどの授業も行われています。授業内容の質問や学習方法を相談する学習支援コーナーも設置されています。

GCE要素  
コミュニケーション力・自律的学習力



#### ●ラーニングアゴラ棟

アゴラ(広場、市場)でいるような店を出したり多彩なイベントを行うイメージで、グループワークや自習などの学習に加え、国際交流、学会、講演会、市民講座なども行えるような多目的空間として整備されました。施設内は、無線LANや音響設備も完備しており、学生活動の拠点として活用されることが期待されています。

GCE要素  
コミュニケーション力・自律的学習力



#### ●未来型インタラクティブ教育棟

学生が主体的に学ぶための環境を提供することを目的とした、対話的・複合的な学習環境の拠点です。アクティブ・ラーニングに適した講義室、セミナーやプレゼンテーション、ディスカッションに利用できる学習スペースが設けられています。自習スペースとしての活用も可能です。

GCE要素  
自律的学習力



#### ●ランゲージ・ラウンジ

曜日ごとに初級英会話やネイティブ・コーディネーターによる英語でのプレゼンテーション指導、日本人学生や留学生による自国の文化紹介など、様々な活動を行っています。

#### ●グローバルコミュニケーションラウンジ

複数の外国語と日本語が堪能で、国際経験豊かなスタッフが常駐して、交流をサポートしています。外国語に親しみ、国際的なコミュニケーション能力を高める取り組みを実施しています。

GCE要素  
多様な文化の受容・コミュニケーション力



#### ●明専寮●国際研修館

#### ●スチューデント・レジデンス

丸工大の寮には、寮での共同生活を通じて、グローバルリーダーの育成を目指す明専寮、日本人学生と外国人留学生在が混住した、国際交流と協働学習のための国際研修館、日本人学生と留学生がルームシェアするスチューデント・レジデンスの3つがあります。

GCE要素  
多様な文化の受容・コミュニケーション力

## Campus on X

海外学習経験(Study Abroad)、海外就業体験(Work Abroad)を推進するために、国際共同研究の推進を強化し、海外拠点の整備、拡充を行います。現在、マレーシアプトラ大学内に設置している海外教育研究拠点MSSCの活動の充実を図るとともに、新たな海外拠点の整備に取り組んでいます。

### MSSC on UPM(マレーシアプトラ大学)



2013年4月にマレーシアの国立マレーシアプトラ大学(UPM)内に海外教育研究拠点「MSSC」を開設しました。

→詳しくはP30

設置目的

1. 学生のグローバル化
2. 優秀な外国人留学生の獲得
3. 国際的な研究活動の推進
4. 教職員のグローバル化

GCE

# Ambitious

## 学生プロジェクト

本事業は、課題探究とその解決能力を涵養し、工学基礎力とともに、コミュニケーション能力、及び幅広い教養を身に付け、企業や社会において先導的リーダーシップを発揮することのできる創造的人材の育成を目的としています。

### 創造学習プロジェクト

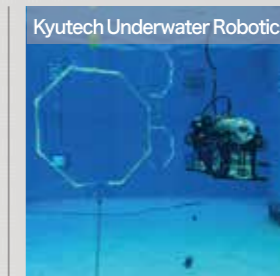
すでに活動実績があり、教員の指導のもと、世界大会ARLISS大会、全日本学生フォーミュラ大会、ロボットコンテスト等の技術系競技会への参加や、エコプロジェクト、地域活性化プロジェクト等の地域貢献活動に取り組む学生グループに対して、明専会等とともに、1団体につき、200万円を限度として、活動経費を支援するものです。



宇宙クラブ  
有翼ロケットを開発し、誰もが宇宙旅行に行ける未来を目指します。



RoDEP  
レスキューロボットを製作し、ロボカップジャパンオープンで上位入賞を目指します。



Kyutech Underwater Robotics  
水中ロボットの開発を行い、水中ロボット競技会での優勝を目指します。



e-car  
ガソリン自動車を電気自動車にコンバートし、EVフェスティバルでの上位入賞を目指します。

Other Projects  
衛星開発プロジェクト、学生フォーミュラ(KIT-Formula)、CIR-KIT(サーキット)、Hibikino-Musashi、ロボコンプロデュース出場プロジェクト、KIT EV Formula VolTech、マイクロロボットコンテスト参加プロジェクト、KIT CANSAT Project チーム KITCATS、飯塚未来開発、DSPシステム部、Hibikino-Musashi@Home、stairs、team北キュー、無線部、Kyutech-JAIRO

### 安川電機プロジェクト

創立100周年を迎えた株式会社安川電機から記念事業の一環として、平成27年度から実施しています。活動実績の有無を問わず、教員の指導のもと、メカトロニクスものづくり活動を行う学生グループに対して、1団体につき、200万円を限度として、安川電機から活動経費を支援していただいています。



Hibikino-Tom's  
トマト収穫の自動化、効率化を目的としたロボットを製作し、トマトロボット競技会での優勝と、菜園での実用化を目指します。

### 夢チャレンジプロジェクト

将来的に発展が見込まれる新規プロジェクトのスタートアップ支援として、萌芽的取組を行う団体に対し、1団体30万円を限度として支援します。



### 世界大会で優勝!

平成29年7月27日(木)~30日(日)まで、名古屋市国際展示場(ポートメッセなごや)で開催された、ロボットの性能を競う世界大会「Robo Cup 2017」において、生活支援ロボットの性能を競う「@HOME League」に平成29年度安川電機プロジェクトに採択された「Hibikino Musashi@Home(担当教員:生命体工学研究科 田向権准教授)」チームが出場し、標準リーグ「Domestic Standard Platform League」で「優勝」という快挙を成し遂げました。



## 私立明治専門学校

1907年(明治40年7月23日)	私立明治専門学校(4年制)	設立認可	
1909年(明治42年4月1日)		開校	採鉱学科、冶金学科、機械学科
1911年(明治44年4月1日)		学生受入	応用化学科、電気工学科

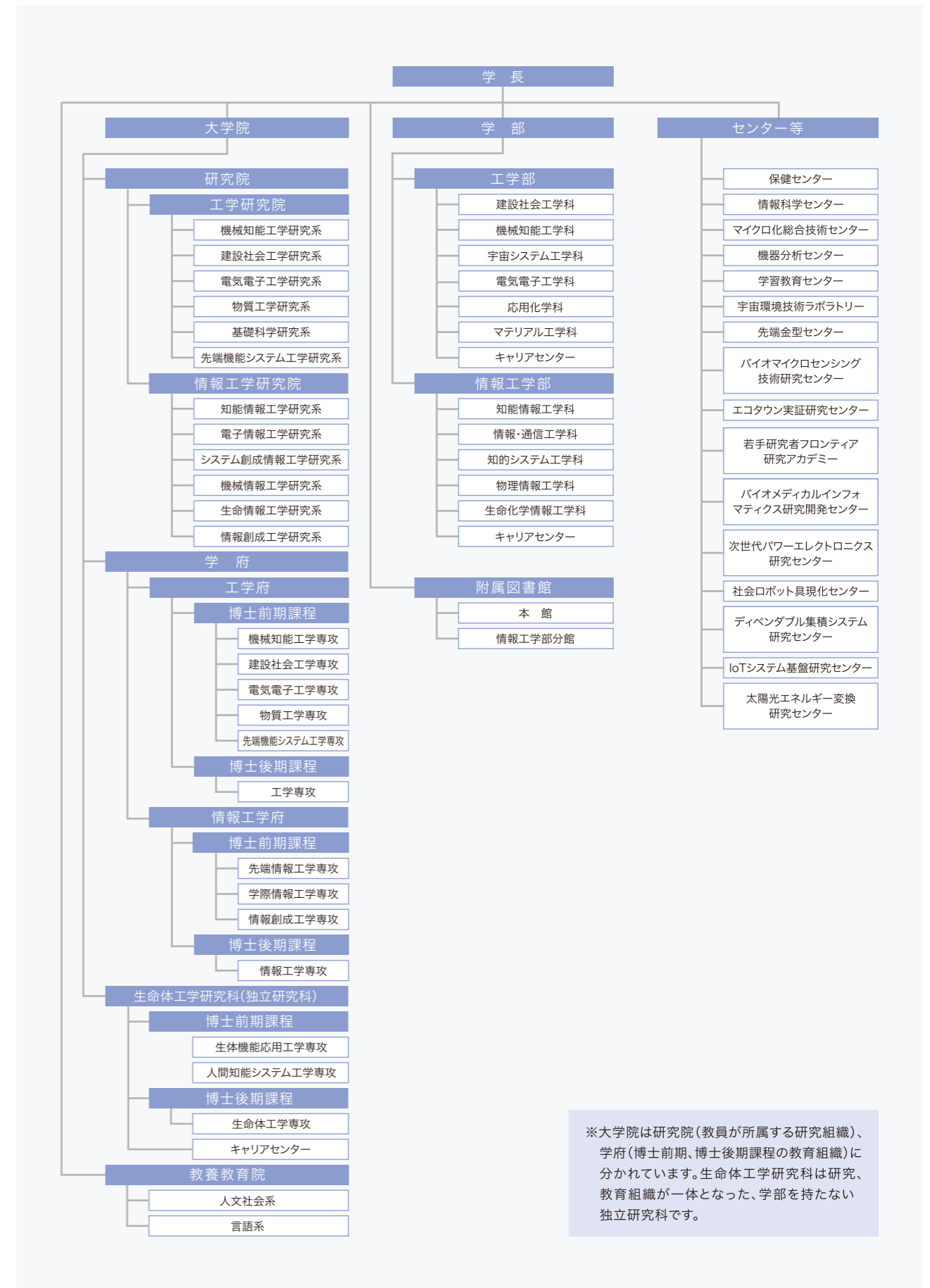
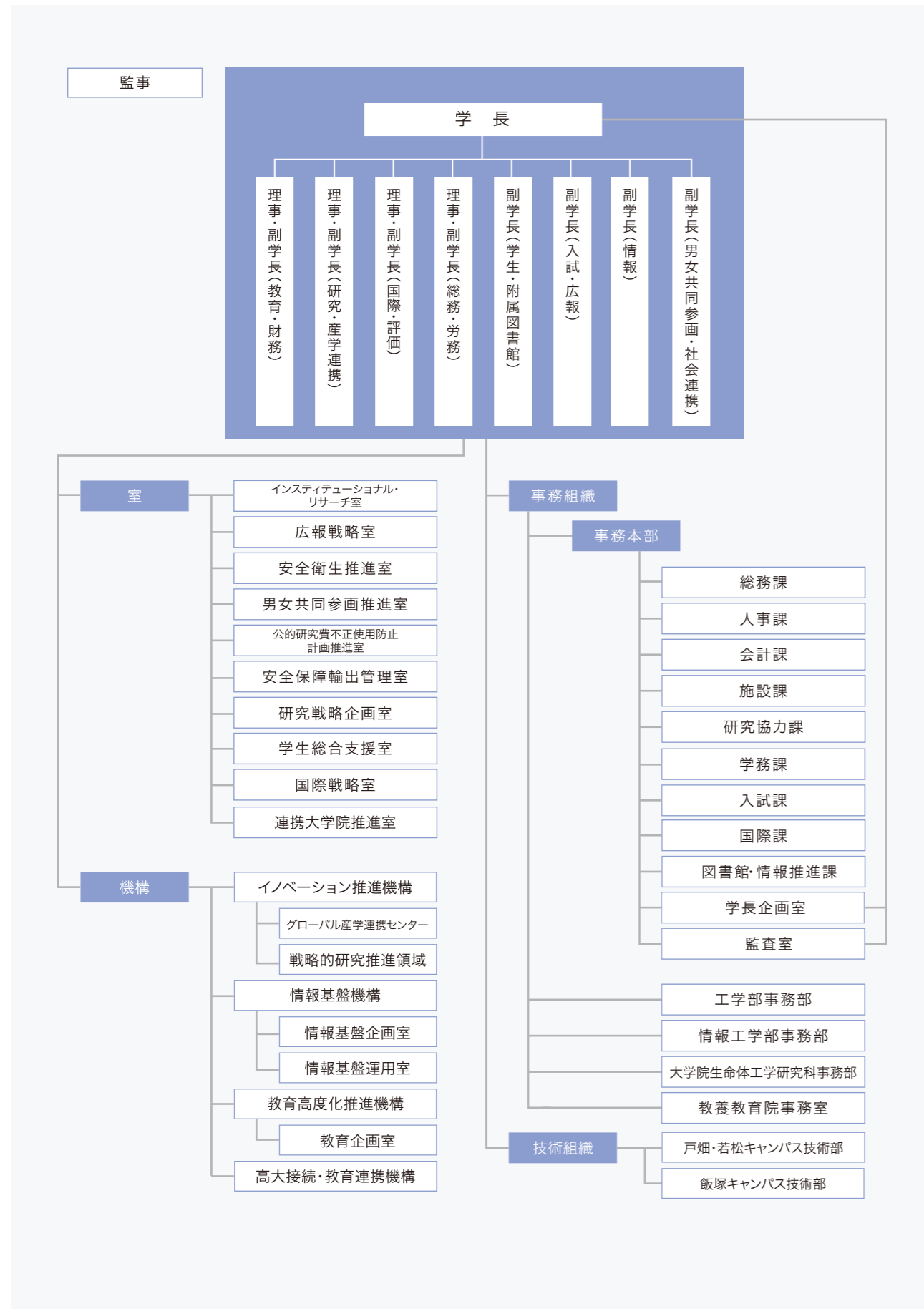
## 国立明治専門学校

1921年(大正10年3月30日)	国立明治専門学校(4年制)	官立移管	鉱山工学科、冶金工学科、機械工学科、応用化学科、電気工学科
1938年(昭和13年4月1日)		学科増設	採炭工学科(昭和18.3.31廃止)
1943年(明治18年4月1日)		学科増設	火薬学科
1944年(昭和19年4月1日)	明治工業専門学校(3年制)	改称	採鉱科、冶金科、機械科、化学工業科、電気科、火薬科
		学科増設	製鉄機械科
1945年(昭和20年4月1日)		学科増設	電気通信科、第二部機械科、第二部電気科
1946年(昭和21年4月1日)		設置学科統合	採鉱科、冶金科、機械科甲類/乙類、化学工業科甲類/乙類、電気科、電気通信科、第二部機械科、第二部電気科

## 九州工業大学

1949年(昭和24年5月31日)	九州工業大学	明治工業専門学校を包括、設置	鉱山工学科、機械工学科、電気工学科、金属工学科、工業化学科
1951年(昭和26年3月31日)	明治工業専門学校	廃止	
1951年(昭和26年4月1日)	九州工業大学短期大学部(夜間3年制)	併設	機械科、電気科
1954年(昭和29年4月1日)	工学専攻科	設置	鉱山工学科、機械工学科、電気工学科、金属工学科、工業化学科
1959年(昭和34年4月1日)	工学部第二部(夜間5年制)	設置	機械工学科、電気工学科
1960年(昭和35年4月1日)		学科増設	制御工学科
1961年(昭和36年3月31日)	九州工業大学短期大学部	廃止	
1962年(昭和37年4月1日)		学科増設	機械工学第二学科
1964年(昭和39年4月1日)		改称	開発土木工学科(旧鉱山工学科)
		学科増設	電子工学科、制御工学科(工学専攻科)
1965年(昭和40年3月31日)	工学専攻科	廃止	
1965年(昭和40年4月1日)	大学院工学研究科(修士課程)	設置	開発土木工学専攻、機械工学専攻、電気工学専攻、金属工学専攻、工業化学専攻、制御工学専攻
1966年(昭和41年4月1日)		修士課程増設	機械工学第二専攻
1967年(昭和42年4月1日)		学科増設	金属加工学科
1968年(昭和43年4月1日)		修士課程増設	電子工学専攻
1971年(昭和46年4月1日)		学科増設	情報工学科
		修士課程増設	金属加工工学専攻
1974年(昭和49年4月1日)		学科増設	環境工学科
1975年(昭和50年4月1日)		修士課程増設	情報工学専攻
1975年(昭和50年5月10日)	保健管理センター	設置(平成16.4.1～保健センターに改称)	
1977年(昭和52年4月1日)		学科増設	工学部第二部材料工学科
1978年(昭和53年4月1日)		修士課程増設	環境工学専攻
1986年(昭和61年10月1日)	情報工学部	設置	
1987年(昭和62年4月1日)		学生受入	知能情報工学科、電子情報工学科
1987年(昭和62年5月21日)	情報科学センター	設置	
1988年(昭和63年4月1日)	情報工学部	学生受入	制御システム工学科、機械システム工学科
	大学院工学研究科(博士課程)	設置	設計生産工学専攻、電気工学専攻、物質工学専攻
	工学部改組	設置	設計生産工学科、電気工学科、物質工学科、夜間主コース(4年制)
1989年(平成1年4月1日)	情報工学部	学生受入	生物化学システム工学科
1989年(平成1年5月29日)	地域共同研究センター	設置	
1990年(平成2年6月8日)	マイクロ化総合技術センター	設置	
1991年(平成3年4月1日)	大学院情報工学研究科(修士課程)	設置	情報科学専攻、情報システム専攻
1993年(平成5年4月1日)	大学院情報工学研究科(博士課程)	設置	情報科学専攻、情報システム専攻
	機器分析センター	設置	
1995年(平成7年11月1日)	サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	設置	
1997年(平成9年3月31日)	工学部改組	廃止	設計生産工学科
1997年(平成9年4月1日)		設置	機械知能工学科、建設社会工学科
2000年(平成12年4月1日)	大学院生命体工学研究科(独立研究科/博士課程)	設置	
2001年(平成13年3月31日)	大学院工学研究科(博士課程)	廃止	設計生産工学専攻
2001年(平成13年4月1日)		設置	機械知能工学専攻、建設社会工学専攻
	大学院生命体工学研究科(独立研究科/博士課程)	学生受入	生体機能専攻、脳情報専攻
2002年(平成14年4月1日)	大学院情報工学研究科(博士課程)	設置	情報創成工学専攻
2003年(平成15年4月1日)	大学院工学研究科(博士課程)	設置	機能システム創成工学専攻
2004年(平成16年4月1日)	国立大学法人九州工業大学	設置(国立大学法人が設置した国立大学となる)	
2004年(平成16年4月1日)	情報工学部改組	廃止及び設置	システム創成情報工学科(旧制御システム工学科) 機械情報工学科(旧機械システム工学科) 生命情報工学科(旧生物化学システム工学科)

2004年(平成16年4月1日)	ヒューマンライフIT開発センター	設置	
2004年(平成16年12月1日)	宇宙環境技術研究センター	設置(平成22.7.7～宇宙環境技術ラボラトリーに改称)	
	ネットワークデザイン研究センター	設置	
	先端金型センター	設置	
	バイオマイクロセンシング技術研究センター	設置	
2005年(平成17年11月2日)	理数教育支援センター	設置	
2005年(平成17年12月7日)	エコタウン実証研究センター	設置	
2006年(平成18年4月1日)	工学部夜間主コース	学生募集停止	
2006年(平成18年10月1日)	産学連携推進センター	改組(地域共同研究センター)	
2006年(平成18年10月27日)	情報通信技術教育センター	設置	
2007年(平成19年4月1日)	環境マネジメントセンター	設置	
2007年(平成19年4月20日)	先端エコフィッティング技術研究開発センター	設置	
2008年(平成20年4月1日)	大学院改組	廃止及び設置	工学研究院、工学府(旧工学研究科)、情報工学研究院 情報工学府(旧情報工学研究科)
	工学部改組	廃止及び設置	電気電子工学科(旧電気工学科) 応用化学科(旧物質工学科) マテリアル工学科(旧物質工学科)、総合システム工学科
2009年(平成21年3月31日)	サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	廃止	
2009年(平成21年4月1日)	産学連携推進センター 若松分室	改組(ヒューマンライフIT開発センター)	
2009年(平成21年5月28日)	創立100周年		
2010年(平成22年3月31日)	情報通信技術教育センター	廃止	
2011年(平成23年4月1日)	学習教育センター	設置	
2011年(平成23年9月7日)	若手研究者フロンティア研究アカデミー	設置	
2012年(平成24年3月31日)	環境マネジメントセンター	廃止	
2012年(平成24年4月1日)	グリーンイノベーション実践教育研究センター	設置	
	バイオメディカルイノベーション実践教育研究センター	設置	
2012年(平成24年5月2日)	次世代パワーエレクトロニクス研究センター	設置	
2012年(平成24年9月1日)	イノベーション推進機構	設置	
	リサーチ・アドミニストレーション・センター	設置	
2013年(平成25年4月1日)	情報基盤機構	設置	
2004年(平成16年4月1日)	社会ロボット具現化センター	設置	
	ディペンダブル集積システム研究センター	設置	
	MSSC(海外教育研究拠点)	設置	
2014年(平成26年4月1日)	大学院工学府改組	廃止及び設置	博士後期課程 工学専攻(1専攻化)
	大学院情報工学府改組	廃止及び設置	博士前期課程 先端情報工学専攻(旧情報科学専攻) 学際情報工学専攻(旧情報システム専攻) 博士後期課程 情報工学専攻(1専攻化)
	大学院生命体工学研究科改組	廃止及び設置	博士前期課程 生体機能応用工学専攻(旧生体機能専攻) 人間知能システム工学専攻(旧脳情報専攻) 博士後期課程 生命体工学専攻(1専攻化)
	教育高度化推進機構	設置	
2015年(平成27年4月1日)	イノベーション推進機構改組	廃止及び設置	産学連携・URA領域(旧産学連携推進センター、 旧リサーチ・アドミニストレーション・センター) 戦略的研究推進領域
2015年(平成27年12月2日)	イノベーション推進機構改組	設置	共同研究推進領域
2016年(平成28年3月31日)	グリーンイノベーション実践教育研究センター	廃止	
2016年(平成28年4月1日)	教養教育院	設置	
2017年(平成29年10月1日)	IoTシステム基盤研究センター 太陽光エネルギー変換研究センター	設置	
2018年(平成30年3月31日)	ネットワークデザイン研究センター	廃止	
	先端エコフィッティング技術研究開発センター	廃止	
	理数教育支援センター	廃止	
2018年(平成30年4月1日)	高大接続・教育連携機構	設置	AO部門 高大接続部門 STEM教育推進部門
	イノベーション推進機構改組	廃止及び設置	産学連携・URA領域をグローバル産学連携センターに改組
	工学部学科改組	廃止及び設置	建設社会工学科、機械知能工学科、宇宙システム工学科 電気電子工学科、応用化学科、マテリアル工学科
	情報工学部学科改組	廃止及び設置	知能情報工学科、情報・通信工学科、知的システム工学科 物理情報工学科、生命化学情報工学科



※大学院は研究院(教員が所属する研究組織)、学府(博士前期、博士後期課程の教育組織)に分かれています。生命体工学研究科は研究、教育組織が一体となった、学部を持たない独立研究科です。



# 役員名簿 Management and Administrative Heads

## 役員

学長	尾家 祐二
理事(教育・財務担当)	延山 英沢
理事(研究・産学連携担当)	三谷 康範
理事(国際・評価)	横野 照尚
理事(総務・労務担当)	長澤 公洋
監事(非常勤)	羽野 忠
監事(非常勤)	林田 直子

## 副学長

教育・財務担当	延山 英沢
研究・産学連携担当	三谷 康範
国際・評価担当	横野 照尚
総務・労務担当	長澤 公洋
学生・附属図書館担当	赤星 保浩
入試・広報担当	安永 卓生
情報担当	鶴 正人
男女共同参画・社会連携担当	安河内 恵子

## 工学研究院(工学府・工学部)

研究院長(学府長・学部長)	芹川 聖一
副研究院長(副工学部長)	永瀬 英生
副研究院長(副工学府長)	中尾 基
事務長(工学部)	葉石 研次

## 情報工学研究院(情報工学府・情報工学部)

研究院長(学府長・学部長)	梶原 誠司
副研究院長(副情報工学部長)	青木 俊介
副研究院長(副情報工学府長)	宮野 英次
事務長(情報工学部)	武谷 英彦

## 生命体工学研究科

研究科長	花本 剛士
副研究科長	夏目 季代久
事務長	白木 智行

## 教養教育院

教育院長	西野 和典
事務室長(併)	松浦 文明

## 事務本部

総務課長	宮松 ひろみ
人事課長	三宅 智実
会計課長	小寺 孝太郎
施設課長	川畑 博康
研究協力課長	川上 幸雄
学務課長	松浦 文明
入試課長	山下 修充
国際課長	大賀 恵
図書館・情報推進課長	岩村 哲也
学長企画室長(併)	三宅 智実
監査室長	那須 純次

## 附属図書館

館長	赤星 保浩
分館長	松山 明彦

## イノベーション推進機構

機構長	三谷 康範
グローバル産学連携センター長	竹澤 昌晃

## 情報基盤機構

機構長	鶴 正人
-----	------

## 教育高度化推進機構

機構長	延山 英沢
-----	-------

## 保健センター

所長	落合 秀夫
----	-------

## 情報科学センター

センター長	久代 紀之
-------	-------

## マイクロ化総合技術センター

センター長	中村 和之
-------	-------

## 機器分析センター

センター長	中戸 晃之
-------	-------

## 学習教育センター

センター長	坂本 寛
-------	------

## 宇宙環境技術ラボラトリー

施設長	趙 孟佑
-----	------

## 先端金型センター

センター長	植原 弘之
-------	-------

## バイオマイクロセンシング技術研究センター

センター長	竹中 繁織
-------	-------

## エコタウン実証研究センター

センター長	白井 義人
-------	-------

## 若手研究者フロンティア研究アカデミー

アカデミー長	三谷 康範
--------	-------

## バイオメディカルインフォマティクス研究開発センター

センター長	倉田 博之
-------	-------

## 次世代パワーエレクトロニクス研究センター

センター長	大村 一郎
-------	-------

## 社会ロボット具現化センター

センター長	石井 和男
-------	-------

## ディペンダブル集積システム研究センター

センター長	尾知 博
-------	------

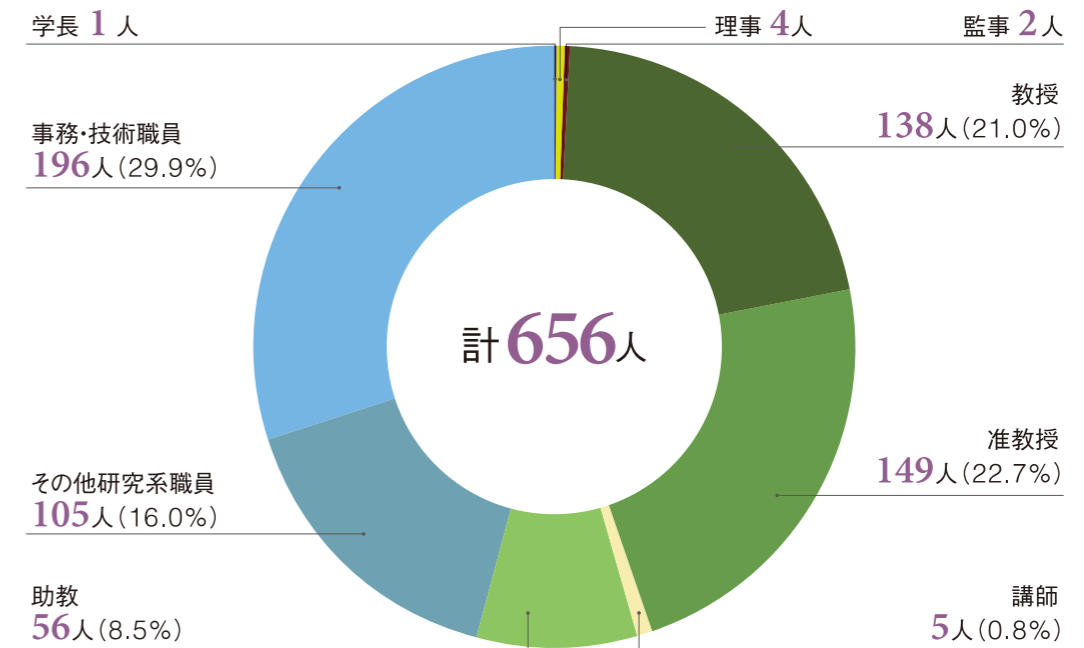
## IoTシステム基盤研究センター

センター長	中藤 良久
-------	-------

## 太陽光エネルギー変換研究センター

センター長	早瀬 修二
-------	-------

# 職員数 Faculty and Staff



区分	学長	理事	監事	教授	准教授	講師	助教	教育職員合計	その他研究系職員	事務・技術系職員	総計
役員	1	4(3)	2(2)								7(3)(2)
大学院工学研究院				58	53	1	26	138	25(12)		163(12)
大学院情報工学研究院				44	47	2	17	110	21(5)		131(5)
大学院生命体工学研究科				20	18		2	40	39(28)	7	86(28)
教養教育院				11	18			29		1	30
工学部										13	13
情報工学部										14	14
戸畑・若松キャンパス技術部										37	37
飯塚キャンパス技術部										33	33
イノベーション推進機構				1	3		1	5	8(2)		13(2)
保健センター				1				1		4	5
情報科学センター				1	2		4	7			7
マイクロ化総合技術センター				2	3		1	6	2(2)		8(2)
機器分析センター					1			1			1
学習教育センター					2		2	4			4
宇宙環境技術ラボラトリー							1	1	3		4
若手研究者フロンティア研究アカデミー							1	1	3		4
社会ロボット具現化センター									1(1)		1(1)
バイオメディカルインフォマティクス研究開発センター									1		1
次世代パワーエレクトロニクス研究センター									1		1
事務本部										79	79
学長企画室										4	4
監査室										2	2
男女共同参画推進室									1	1	2
安全衛生推進室						1		1		1	2
インスティテューショナル・リサーチ室							1	1			1
学生総合支援室					2			2			2
アドミッション・オフィス								1			1
総計	1	4(3)	2(2)	138	149	5	56	348	105(50)	196	656(3)(52)

※( )教授兼務で内数、( )非常勤で内数

(平成30年5月1日現在)



入学志願者数及び入学者数

学部・学科	30年度		29年度		
	志願者	入学者	志願者	入学者	
工学部	工学1類	401	80		
	工学2類	723	168		
	工学3類	407	144		
	工学4類	256	80		
	工学5類	212	68		
	機械知能工学科			582	151
	建設社会工学科			374	83
	電気電子工学科			333	134
	応用化学科			185	70
	マテリアル工学科			178	61
	総合システム工学科			151	53
計	1,999	540	1,803	552	
情報工学部	情工1類	760	181		
	情工2類	360	114		
	情工3類	273	126		
	知能情報工学科			392	88
	電子情報工学科			261	94
	システム創成情報工学科			183	83
	機械情報工学科			218	78
	生命情報工学科			230	78
計	1,393	421	1,284	421	
合計	3,392	961	3,087	973	

奨学金受給状況 Scholarship

学部生

区分	日本学生支援機構		地方公共団体・会社等	合計	在学生に対する%
	第一種	第二種			
工学部	576	462	36	1,074	47
情報工学部	464	377	21	862	48
合計	1,040	839	57	1,936	47

(平成29年度)

大学院生

区分		日本学生支援機構			地方公共団体・会社等	合計	在学生に対する%
		第一種	第二種	合計			
工学府	博士前期課程	284	45	329	9	338	59
	博士後期課程	11		11		11	12
情報工学府	博士前期課程	162	45	207	5	212	54
	博士後期課程	9		9		9	19
生命体工学研究科	博士前期課程	114	21	135	11	146	54
	博士後期課程	21	1	22	2	24	17
合計		601	112	713	27	740	49

(平成29年度)

計305人、36カ国・地域

国・地域名	アジア											大洋州	北米	中南米			欧州			中東			アフリカ			合計										
	中国	インドネシア	インド	韓国	マレーシア	タイ	台湾	バンングラアム	モンゴル	ベトナム	フィリピン			ブータン	スリランカ	ミャンマー	ネパール	オーストラリア	アメリカ	カナダ	メキシコ	コスタリカ	コロンビア	フランス	イタリア		ロシア	スロバキア	スペイン	バレンチナ	シリア	アフガニスタン	トルコ	イラン	エジプト	ナイジェリア
合計	104	24	22	21	21	7	7	7	6	6	5	2	1	1	2	1	1	4	3	2	1	10	3	1	1	1	2	2	2	2	1	6	3	1	1	305
合計	学部生	11			5	8			1	2																									27	
	博士前期課程	44	5	2	6	4	12	2	2	2	3	5	2						1	1		1	6			1									102	
	博士後期課程	32	15	20	2	7	7	1	7	4	2	3			1	1			1	3	1	2		1		1	2	1	1	1	1	5	3	1	1	128
	研究生/聴講生/短期	17	4		8	2	2	4							2	1			1				3	2	1							1			48	

内訳

工学部/工学府	学部生	6				3	3						1	2																					15
	博士前期課程	25	1		2	1	6	1		1		1	5	2						1			4								1				51
	博士後期課程	13	2	1	1	3	1		2	3	2											3	1	2					1		2	3	1	1	45
	研究生/聴講生/短期	13			8	1	2	3										1														1			32
小計	57	3	1	14	8	9	4	2	5	2	3	5	2	1	1		1				3	3	2					2		3	3	1	1	143	
情報工学部/情報工学府	学部生	5			2	5																													12
	博士前期課程	11	3	1	2	2	5	1			1												1	1											29
	博士後期課程	5	9	5		4	1	2	1																							1			28
	研究生/聴講生/短期	3	4				1									2								3											13
小計	24	16	6	4	7	9	3	2	2						2							1	4						1		1			82	
生命体工学研究科	博士前期課程	8	1	1	2	1	1			1	1	2							1			1										2			22
	博士後期課程	14	4	14	1	4	2		3	1	1	1							1				1			1	2	1	1					55	
	研究生/聴講生	1					1																	1											3
	小計	23	5	15	3	6	3		3	2	2	3								1	1			1	1	1	1	2	2	1	1	2			80

※研究生/聴講生は、協定校等からの特別聴講(研究)学生を含む

(平成30年5月1日)

# 国際交流協定校 Our Partners

計32ヶ国・地域、135機関 (平成30年5月31日現在)

ダブルディグリー協定大学 11校

教育及び学術交流協定※は学術交流のみ  
 ■▶工学部 ■▶情報工学部 ■▶生命体工学研究科 無印▶大学間

## 地域別の国・地域数、機関数

	欧州	アフリカ	中東	アジア	大洋州	北米	中南米	合計
国・地域数	11	2	1	12	2	2	2	32
機関数	29	2	1	88	4	8	3	135

### イギリス

- クランフィールド大学
- サリー大学

### イタリア

- サレント大学
- ボルツァーノ自由大学科学技術学部 ■
- トリノ大学 ■

### スペイン

- ジャウマ1世大学

### スロバキア共和国

- コシツェ工科大学 電気工学・情報工学部 ■

### チェコ共和国

- オストラバ工科大学 電気工学・コンピュータサイエンス学部 ■■
- ブラハ化学工学大学 ■

### ドイツ

- ブラウンシュバイク工科大学機械工学部 ■
- ブラウンフォーファーIAIS研究所 ■
- クラウスタール工科大学
- シュトゥットガルト大学電気情報工学部 ■■
- ハノーファー大学化学工学研究所 ■
- フライベルグ工科大学

### ノルウェー

- サウスイーストノルウェー大学

### フランス

- ロレーヌ大学 (ダブルディグリー協定大学)
- 国際宇宙大学 ■
- サンティエンヌ国立高等鉱山学院 (ダブルディグリー協定大学)
- 航空宇宙高等学院 ■
- パリ高等機械工学院 ■ (ダブルディグリー協定大学)
- ポルドー工科大学 ENSEIRB-MATMECA大学院 ■
- ボワティエ大学
- 国際情報処理科学院

### ポーランド

- ニコラスコベルニクス大学 物理・天体・情報学部 ■
- アダム・ミツキェヴィチ大学

### ポルトガル

- ポルト大学



### ロシア

- サンクトペテルブルグ工科大学冶金・機械工学・交通研究所 ■
- ノヴォシビルスク大学

### ガーナ

- オールネーションズ大学

### ナイジェリア

- 連邦工科大学アクラ校

### トルコ

- イスタンブール工科大学航空宇宙工学部 ■

### インド

- インド工科大学デリー
- SRM大学 ■
- インド工科大学バラナシ
- ラマン研究所 ■
- インド工科大学インドル ■
- インド工科大学カーンプル
- ドロナチャルヤ工科大学 ■
- マニバル大学
- チェンナイ工科大学 ■
- カルカッタ大学 ■

### バングラデシュ

- ブラック大学
- インデペンデント大学
- ラジシャヒ大学

### インドネシア

- バンドン工科大学
- 北スマトラ大学医学部 ■
- ディボネゴロ工学部 ■
- ハサメディン大学

### タイ

- タマサート大学
- タマサート大学 シリンドホーン国際工学部 ■■
- マヒドン大学理学部 ■
- チュラロンコン大学理学部 ■
- キング・モンクット工科大学北バンコク校 (ダブルディグリー協定大学)
- ラジャマンガラ工科大学プラナコーン校
- カセサート大学
- キング・モンクット工科大学トンブリ校 (ダブルディグリー協定大学)
- キング・モンクット工科大学 ラードクラバン校 ■
- コンケン大学理学部 ■
- ヴィディヤシリメディ工科大学 ■

### シンガポール

- 南洋理工工科大学国立教育研究院 ■

### フィリピン

- フィリピン大学ディリマン校
- アテネオ・デ・マニラ大学

### ベトナム

- FPT大学
- ハノイ科学技術大学
- ホーチミン科学大学
- ベトナム科学技術アカデミー 生物工学研究所 ■
- ベトナム国立衛星センター ■
- ホーチミン市工科大学 (ダブルディグリー協定大学)
- ホーチミン市工業大学DCSELAB研究所 ■

### マレーシア

- プトラ大学 (ダブルディグリー協定大学)
- マレーシア工科大学
- マレーシア国民大学
- マレーシア科学大学
- マラ工科大学
- スルタンイドリス教育大学 ■

### 大韓民国

- 昌原大学校 (ダブルディグリー協定大学)
- 韓国交通大学校
- 釜山大学校
- 国立ハンパット大学校
- 浦項工科大学脳科学研究所 ■
- スンミョン女子大学
- 韓国電子技術研究院
- 嶺南大学校CK-1センター ■
- 国立釜山工科大学化学材料科学工学部 ■
- 浦項工科大学校工学部 ■
- 韓国海洋大学校
- 中央大学校

### 台湾

- 国立台湾科技大学 (ダブルディグリー協定大学)
- 国立成功大学理学院 ■
- 国立成功大学電気資訊学院 ■
- 国立台北科技大学
- 国立陽明大学
- 国立台湾大学 電気工学コンピュータサイエンス学部 ■
- 国立台湾大学 工学部 ■■
- 国立清華大学
- 東海大学
- 国立中山大学工学部 ■

### 中華人民共和国

- 北京科技大学
- 山東大学
- 華東交通大学
- 中国農業大学
- 河南科技大学
- 揚州大学 (ダブルディグリー協定大学)
- 華東師範大学
- 西安電子科技大学 (ダブルディグリー協定大学)
- 西安交通大学
- 清華大学エネルギー動力工程系 ■

- 東北大学
- 復旦大学脳科学研究センター ■
- 大連理工大学
- 中国石油大学
- 合肥工業大学 ■
- 香港科学技術大学生物工学部 ■
- 青島理工大学
- 中国科学院都市環境研究所 ■
- 常熟理工学院
- 江蘇大学
- 南京郵電大学オートメーション工学部 ■

### モンゴル

- モンゴル国立大学

### オーストラリア

- シドニー工科大学
- オーストラリア国立大学

### ニュージーランド

- ユニテック工科大学創造工業商業学部 ■
- オークランド工科大学 知識工学・知識発見研究所 ■

### カナダ

- オンタリオ工科大学

### アメリカ合衆国

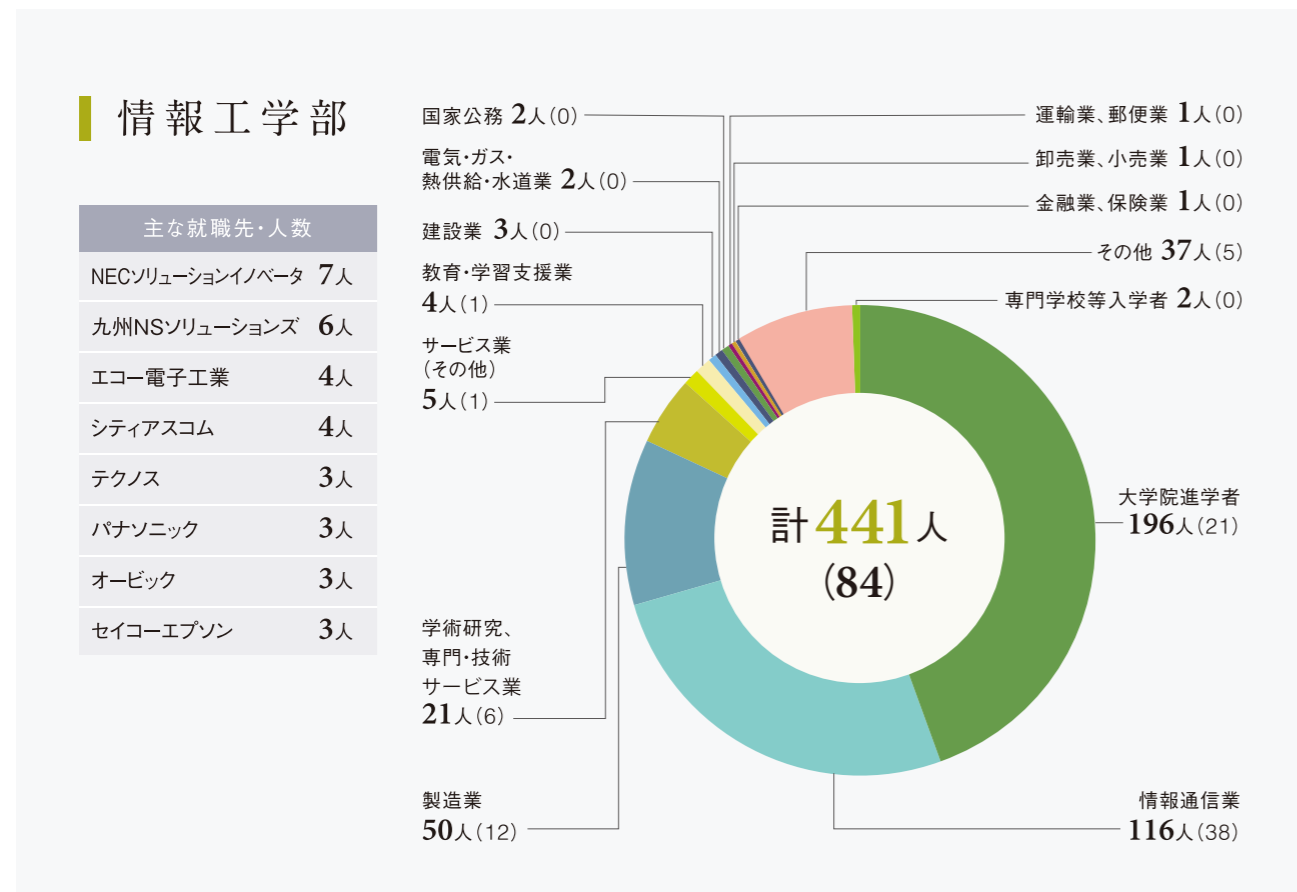
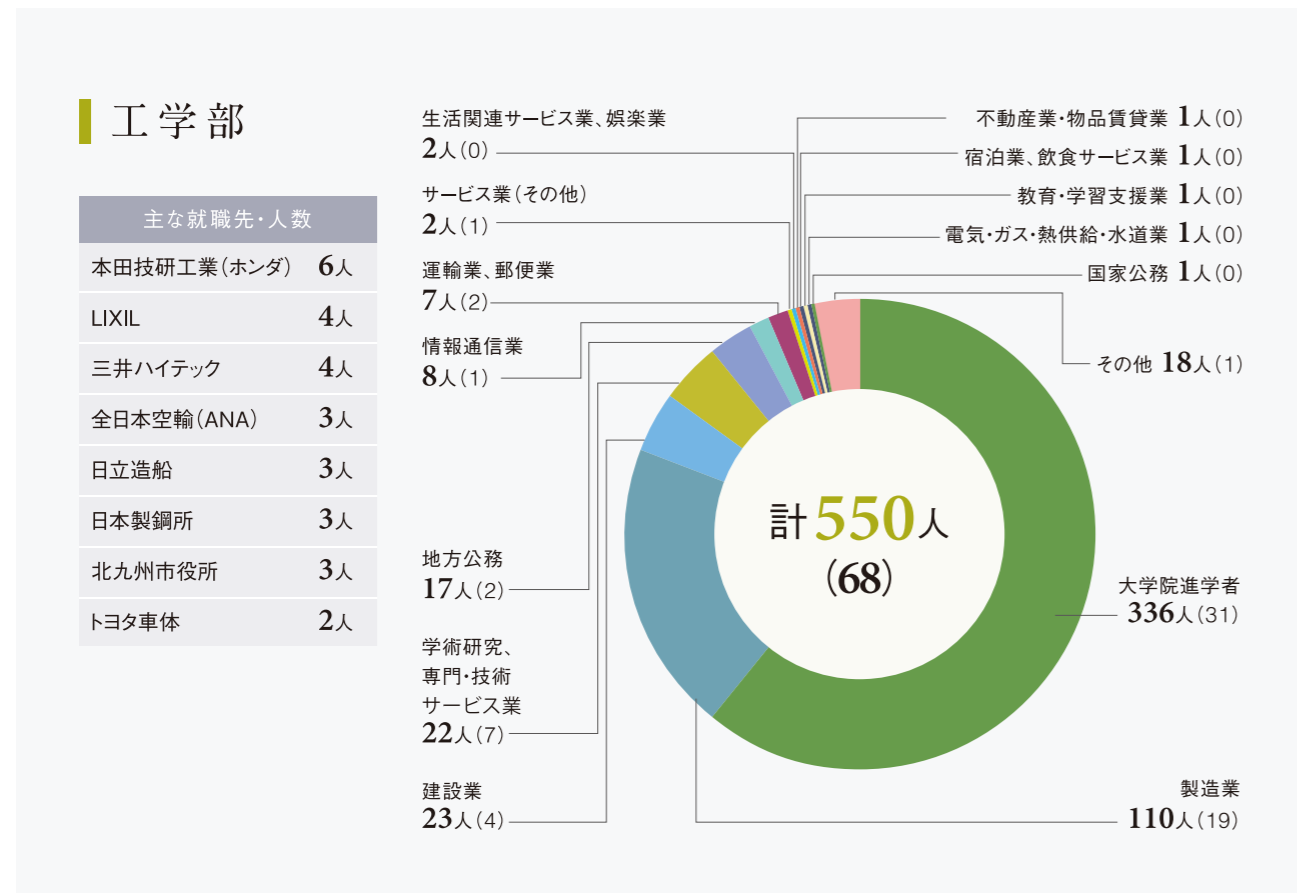
- クラークソン大学 ■
- テキサス大学エルパソ校
- カリフォルニアポリテクニク州立大学
- ニューヨーク市立大学シティカレッジ
- コロラド大学ボルダー校
- ニューヨーク市立大学ブルックリン校
- 南カリフォルニア大学 ビタビアルゴリズム工学部 ■

### コスタリカ

- コスタリカ工科大学 ■

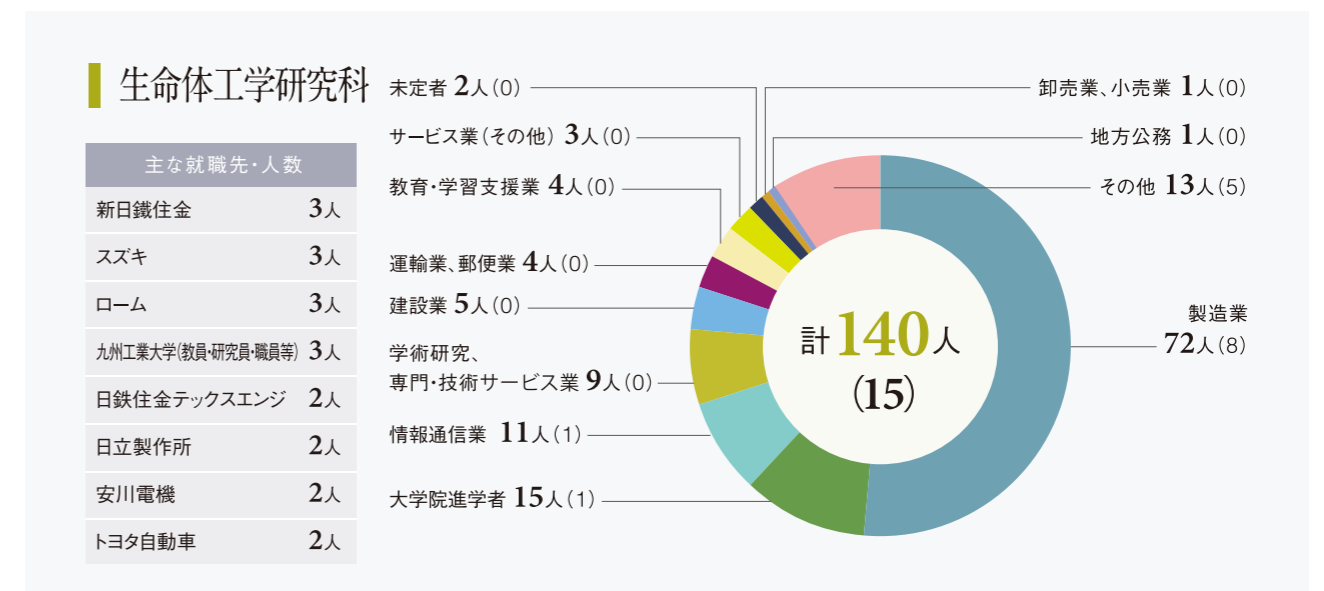
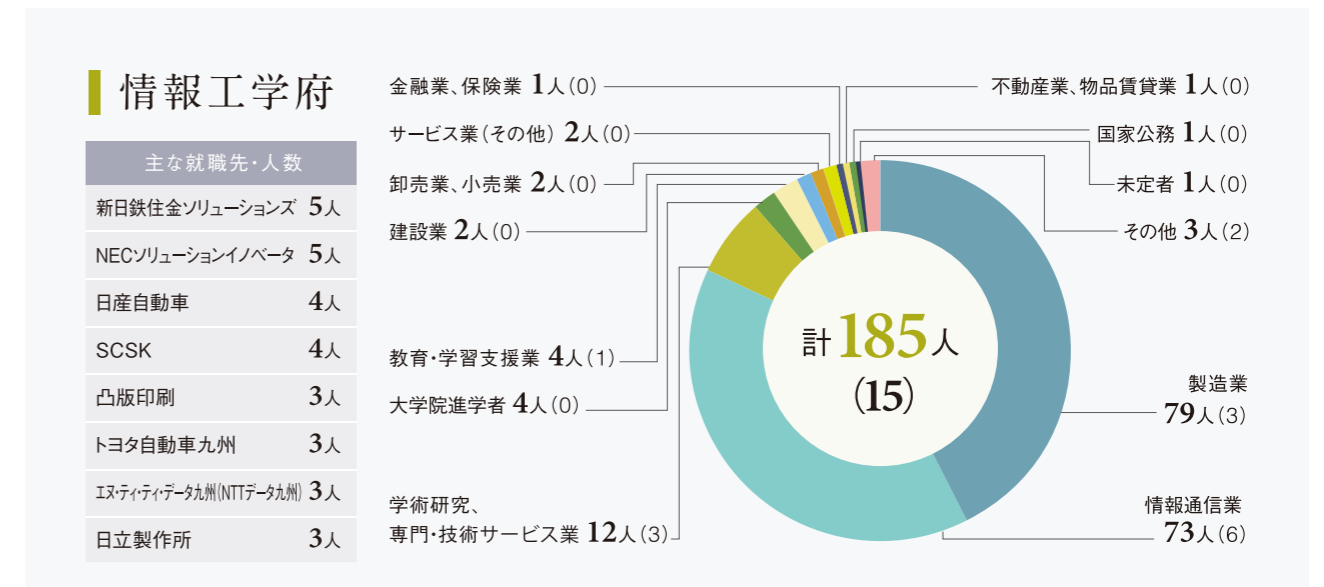
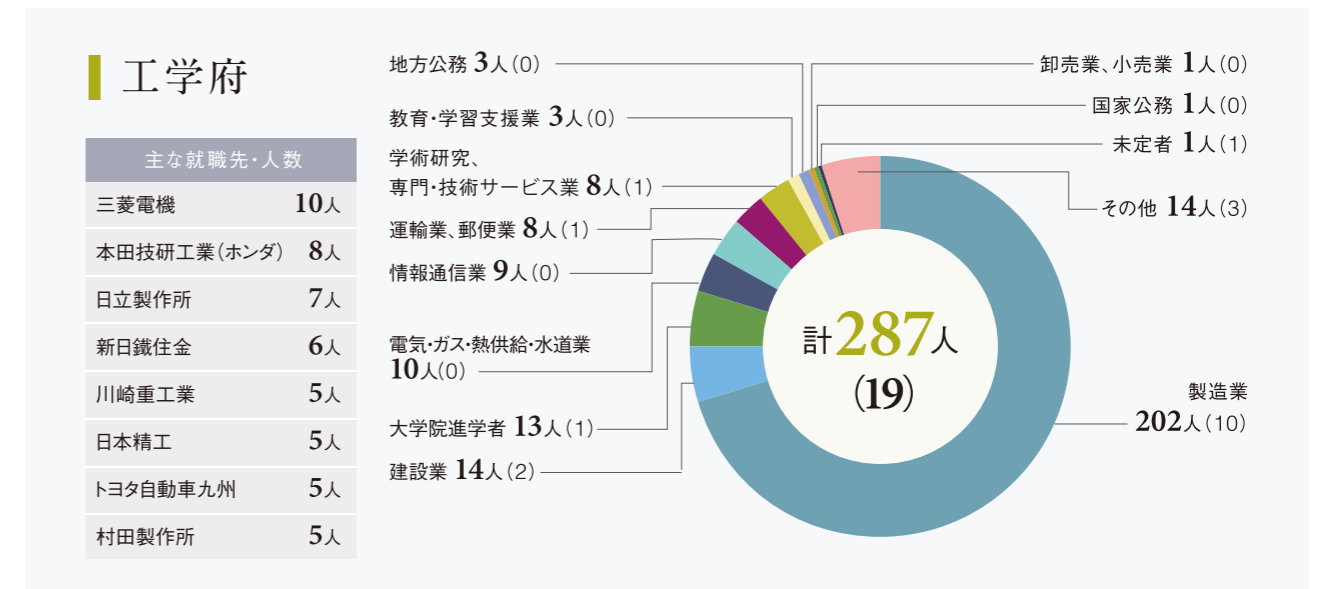
### メキシコ

- メキシコ国立自治大学医学部 微生物・寄生虫学 ■
- 国立メキシコ工科大学



※( )内は女子で内数

(平成30年3月卒業生)



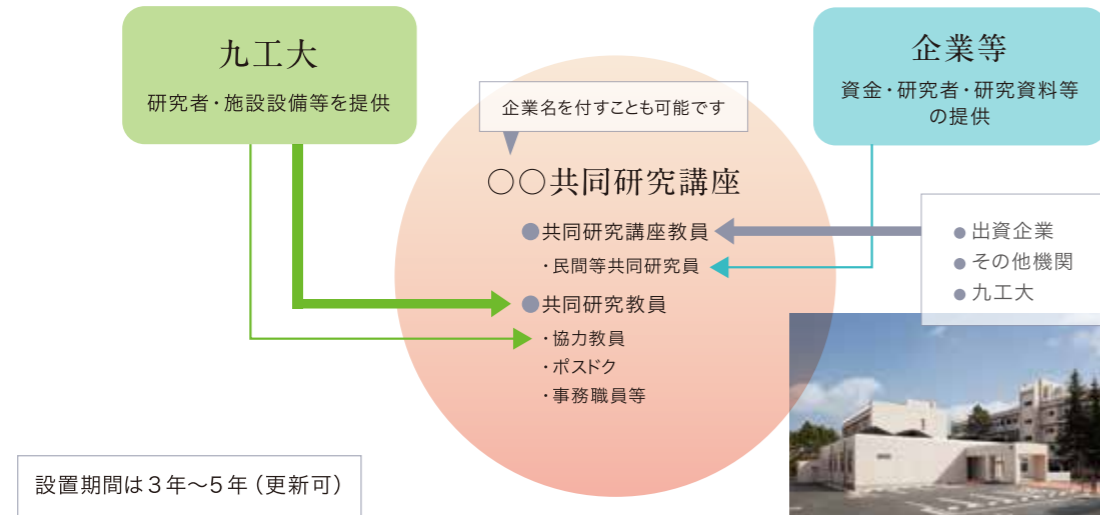
※( )内は女子で内数

(平成30年3月博士前期課程・後期課程修了生)

## 共同研究講座制度

九州工業大学では、平成27年12月から共同研究講座制度をスタートしました

共同研究講座制度は、企業等から共同研究費として資金を提供していただき、大学内に設置する研究組織です。研究組織として置く点が大きな特徴であり、資金提供企業等から資金のほかに研究者を受け入れ、本学の教員と対等の立場で共同して研究を行い、安定した研究基盤を構築し、一定期間継続的に共同して研究を行うことにより、優れた研究成果の創出と新たな研究展開を期待し設置するものです。



- 大学内に、企業の研究ラボを作るようなイメージです。
- 企業から研究者の方に、共同研究講座教員(特任教授、特任准教授等)としてお越しいただきます。講座であるため、学生を教育することができます。
- 大学が組織としてサポートします。企業と大学の幹部同士で講座運営についての情報交換を行います。

### 設置実績 (平成30年4月現在)

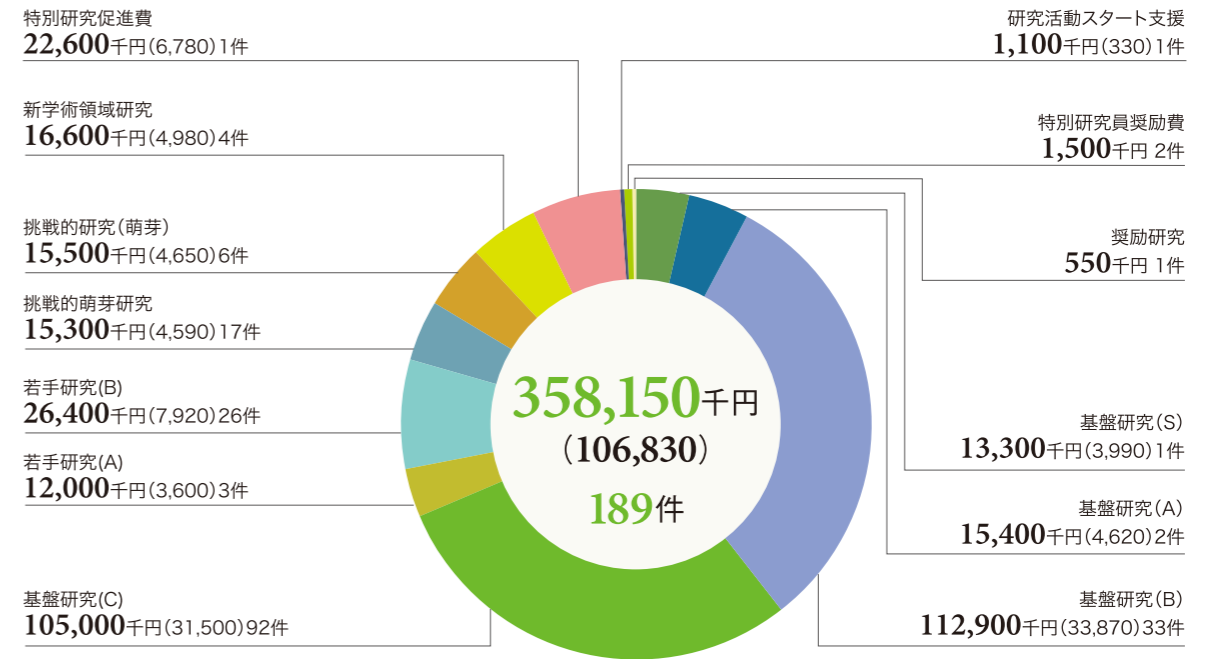
企業名	部局名	講座名	設置期間
パナソニック株	工学研究院	IoTシステム実装研究講座 (パナソニック共同研究講座)	平成29年11月1日 平成32年10月31日
株デンソー	工学研究院	デンソーLean Automation共同研究講座	平成30年4月1日 平成33年3月31日
株ECC	情報工学研究院	ECCウェルネス共同研究講座	
株SUMCO	生命体工学研究科	SUMCO共同研究講座	平成29年7月5日 平成32年6月30日
株高田工業所	生命体工学研究科	プラントライフサイクルエンジニアリング (PLE-TAKADA)講座	平成30年4月1日 平成33年3月31日

## 共同研究実施状況

項目	件数(件)	受入金額(千円)
平成27年度	204	330,898(56,148)
平成28年度	232	424,821(70,722)
平成29年度	266	447,621(75,988)

※複数年契約を含む。( )内は間接経費で外数

## 科学研究費助成事業交付決定状況 (平成29年度)



※( )内は間接経費で外数

## 受託研究受入状況

項目	件数(件)	受入金額(千円)
平成27年度	106	571,655(97,336)
平成28年度	99	444,332(76,868)
平成29年度	111	381,335(70,218)

※複数年契約を含む。( )内は間接経費で外数

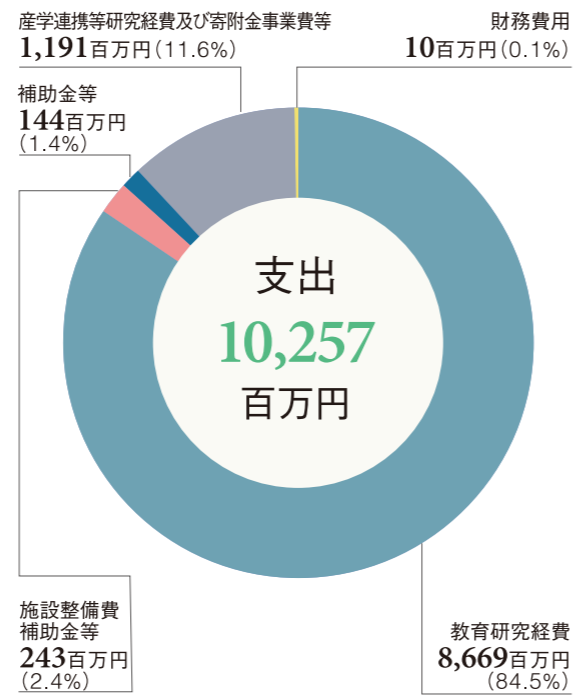
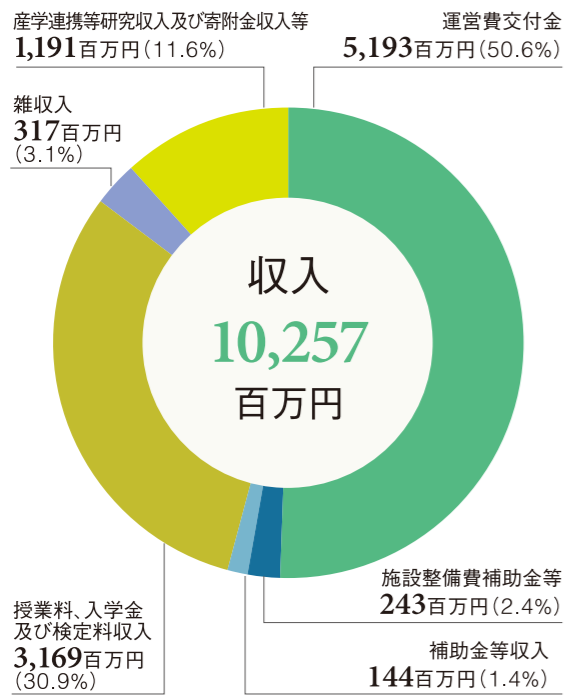
## 寄附金受入状況

項目	件数(件)	受入金額(千円)
平成27年度	124	146,790
平成28年度	117	135,372
平成29年度	100	146,898

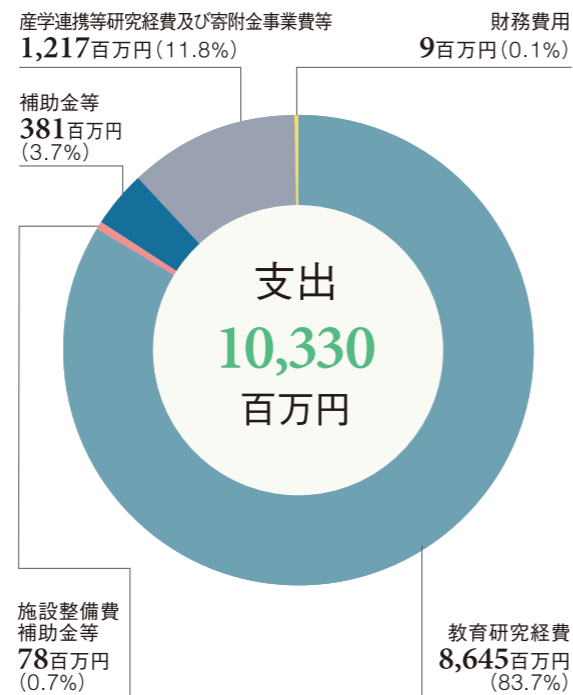
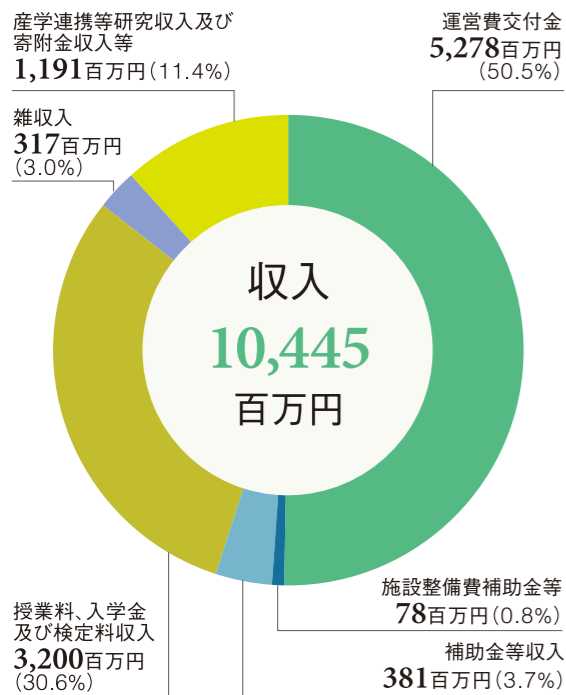
## 寄附講座

寄附者	部局名	講座名	設置期間
山九(株)	大学院工学府	スマート&セーフティ オペレーション (SANKYU)	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日

平成30年度予算



平成28年度決算



※平成28年度決算については、文部科学省承認後、本学公式ウェブサイトに掲載します

図書館・ミュージアム・記念館

附属図書館



附属図書館(戸畑キャンパス)



情報工学部分館(飯塚キャンパス)

附属図書館は、大学の教育と研究活動に必要な図書・雑誌・文献等を収集・整理・保存し、学術・学習の利用に供する施設です。一般の方も簡単な手続きをご利用いただけます。

区分	蔵書数	建物	備考	閲覧室座席数
附属図書館	443,492冊	5,491㎡	昭和42年2階建新築1,693㎡、昭和47年3階建増築872㎡、昭和52年増築734㎡、平成8年増築2,192㎡、平成10年改修3,299㎡、現在4階建書庫5層	591席
情報工学部分館	142,368冊	2,470㎡	平成3年8月竣工 RC3階建	328席
合計	585,860冊	7,961㎡	—	919席

明専アーカイブ



明治専門学校時代から今日までの貴重な文献、書巻、写真、絵画、模型等を展示しています。

<p>展示品 一例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 財団法人私立明治専門学校設立許可書</li> <li>● 徳目八箇条</li> <li>● 山川健次郎講演直筆原稿</li> <li>● 恩賜記念賞銀時計</li> <li>● 明治専門学校本館模型</li> </ul>	<p>ご利用案内</p> <p>開館時間/8:30~12:00、13:00~16:00 休館日/土日祝・年末年始                  入 場 料/無料・要予約                  場 所/北九州市戸畑区仙水町1-1 学生支援プラザ2F                  ご予約・お問い合わせ/九州工業大学 総務課社会連携係                  TEL:093-884-3004                  E-mail:sou-renkei@jimu.kyutech.ac.jp</p>
---	---

百周年中村記念館



本学の創立100周年を迎えるにあたり、本学の卒業生である中村孝氏の寄附により建設し、平成25年3月に開館いたしました。

<p>施設の 貸し出し</p> <p>多目的ホール、特別会議室は、本学の会議・イベント等で利用していない日に一般の方へ貸し出しが可能です(有料・10日前までに申請)。                  ご予約・お問い合わせ/                  九州工業大学 会計課資産管理係                  TEL:093-884-3031                  E-mail:kai-shisan@jimu.kyutech.ac.jp</p>	<p>主な施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 多目的ホール:294㎡ 定員:150人</li> <li>● 特別会議室:96㎡ 定員:50人</li> <li>● 中村ギャラリー</li> <li>● 藤田ギャラリー</li> <li>● カフェレストラン</li> </ul>
---	---

## 福利施設

### 厚生施設



#### 戸畑キャンパス

1階 食堂ホール(550席)  
2階 売店(書籍・文具・食品)

#### 飯塚キャンパス

1階 食堂ホール(666席)、売店(文具・食品・書籍)  
グローバルコミュニケーションラウンジ  
喫茶 キャリアセンター  
2階 和室 国際交流ルーム

戸畑キャンパス：面積/1,577㎡、飯塚キャンパス：面積/2,375㎡

### スチューデント・レジデンス(学生寮)



#### 飯塚キャンパス

スチューデント・レジデンスは、大学院生を中心に外国人留学生及び日本人学生等に住居の場を提供し、併せて留学生及び日本人学生との国際交流の促進を図ることを目的として設置されました。施設は、1戸3LDKを留学生2人と日本人1人でルームシェアするものです。

面積/1,285㎡

### 大学会館



#### 戸畑キャンパス

1階 食堂(161席)  
自主学習室 相談室  
2階 活動室7室  
3階 活動室2室

面積/1,185㎡

### 明専寮(学生寮)



#### 戸畑キャンパス

明専寮は男子学生(主に学部1年生)50人が収容可能な学生寮で、共同生活の中で学生間の相互交流を深めることと併せて、教養教育、英語教育及び自主企画等を経験することで、グローバルリーダーとしての素養を深めるためのプログラムを用意しています。

面積/2,055㎡

### 国際交流会館



#### 戸畑キャンパス/飯塚キャンパス

留学生及び外国人研究者等に住居の場を提供し、併せて留学生及び研究者との国際交流の促進を図ることを目的として設置されました。単身用及び家庭用を合わせて戸畑キャンパス50室、飯塚キャンパス18室。

戸畑キャンパス：面積/1,686㎡  
飯塚キャンパス：面積/785㎡

### 学生支援プラザ



#### 戸畑キャンパス

1階 情報基盤室 ピロティ ロビー  
工学部キャリアセンター  
学生総合支援室  
2階 学術展示室 明専アーカイブ

面積/688㎡

### 国際研修館



#### 戸畑キャンパス

国際研修館は、大学の日本人学生と外国人留学生の混住による国際交流及び入館者と短期受入れ留学生との協働学習を行う複合的な学習環境の場として、平成27年4月に開館されました。施設は、1つのユニットに3名分の個室と共用のリビング等を備え42名を収容できます。

面積/2,413㎡

### 長陽山荘(学外研修施設)



学生及び教職員の交流と正課及び課外活動の助成を目的として、阿蘇の大自然に囲まれた阿蘇郡長陽村(現：南阿蘇村)に設置されました。なお、この施設は平成11年4月に同窓会「明専会」から寄付を受けたものです。

居室(延床面積/314㎡ 構造W2一部RC)(収容人数約35名)  
研修室(洋室)1 研修室(和室)2 宿泊室・談話室2  
浴室2 管理入室 厨房  
〒869-1404 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽607-1

### 鳳龍会館



#### 戸畑キャンパス

清家清氏の設計により創立50周年募金で建設され、様々な交流活動の拠点として活用されています。建物内には会議室、ランゲージ・ラウンジがあり、ロビーには、本学OBの顕彰プレート等を展示しています。

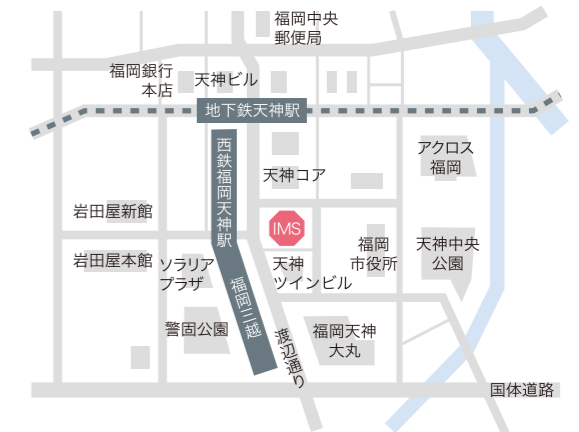
面積/476㎡(ロビー/214㎡)

## サテライトキャンパス・海外教育研究拠点

### 九州工業大学サテライト福岡天神

福岡市天神のイムズビル 11F にサテライトキャンパスを設置しています。大学紹介(パネル・ビデオ・実物展示)、e-ラーニング(大学の講義をバーチャル体験)、免許法認定公開講座などを行っています。

開館時間	10:00~17:00
定休日	毎週月曜日及びIMS休館日(第3火曜日不定)
住所	福岡市中央区天神1丁目7番11号イムズ11F
電話番号	050-3650-6665(直通)
Email	kyutechplaza@jimu.kyutech.ac.jp
URL	http://www.kyutech.ac.jp/facilities/satellite-campus.html



### MSSC (エム・エス・エス・シー)

2013年4月、本学はマレーシアの国立大学であるマレーシアプトラ大学の構内に、日本の国立大学として初となる学位授与プログラムを実施するための海外教育研究拠点「MSSC」を設置しました。マレーシアプトラ大学とは、2002年に大学間交流協定を締結して以来、様々な分野での研究交流・共同研究、及び相互学生交流事業を展開してきました。MSSCでは、世界のトップレベルの分野を創出する国際研究連携、研究を通じた国際的な産学連携による社会貢献、そして世界に通用するグローバル・エンジニアを養成する教育の3つを柱とした本学のグローバル展開事業を推進しています。

MSSCには、現地採用職員2名が常駐しています。本学はMSSC内にグループワーク向け教室「MILAiS」型講義室をはじめ、学生用フリースペース、TV会議室、教員室等を設けることで、本学の学生・教職員が、これらの施設を利用して、マレーシアプトラ大学との国際連携活動を実施できるような環境を整えています。また、本学から派遣される学生及び教職員は、マレーシアプトラ大学内の施設も一部利用可能です。MSSCでは、これまでの研究交流に加え、マレーシアプトラ大学とのデュアルディグリープログラムの実施や学生交流プログラム等により毎年約100名の学生派遣、FD (Faculty Development)、SD (Staff Development) を目的とした教職員の派遣などを行っています。



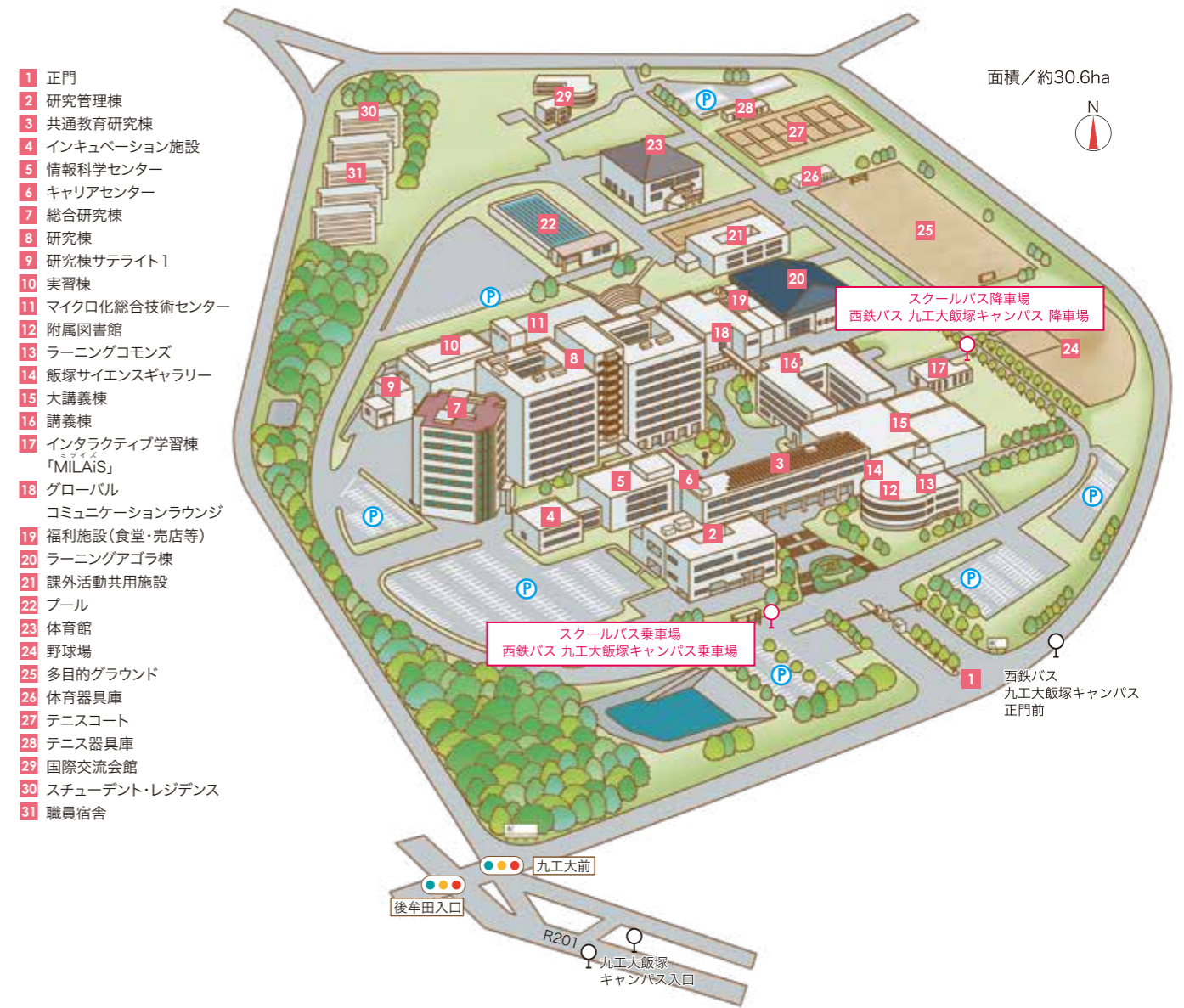
住所	1st Floor UPM Deputy Vice Chancellor ( Industry and Community relations )'s Office Universiti Putra Malaysia 43400 UPM Serdang Selangor Darul Ehsan, Malaysia
電話番号	+60-3-8941-6964
Email	mssc@jimu.kyutech.ac.jp
URL	http://www.kyutech.ac.jp/japanese/mssc/



# 戸畑キャンパス 工学部/大学院工学府



# 飯塚キャンパス 情報工学部/大学院情報工学府



# 若松キャンパス 大学院生命体工学研究科 (北九州学術研究都市内)



- 1 九州工業大学  
大学院生命体工学研究科
- 2 学術情報センター  
(図書館・情報処理施設)
- 3 会議場
- 4 産学連携センター
- 5 体育館
- 6 教職員宿舎
- 7 北九州市立大学 国際環境工学部  
大学院国際環境工学研究科
- 8 環境エネルギーセンター
- 9 北九州市立大学  
計測・分析センター
- 10 北九州市立大学 特殊実験棟
- 11 運動場
- 12 テニスコート
- 13 クラブ棟
- 14 早稲田大学大学院  
情報生産システム研究科
- 15 早稲田大学  
情報生産システム研究センター
- 16 花村池
- 17 配水池
- 18 情報技術高度化センター
- 19 留学生宿舎
- 20 北九州市立大学 留学生会館
- 21 共同研究開発センター
- 22 事業化支援センター
- 23 技術開発交流センター



校舎全景



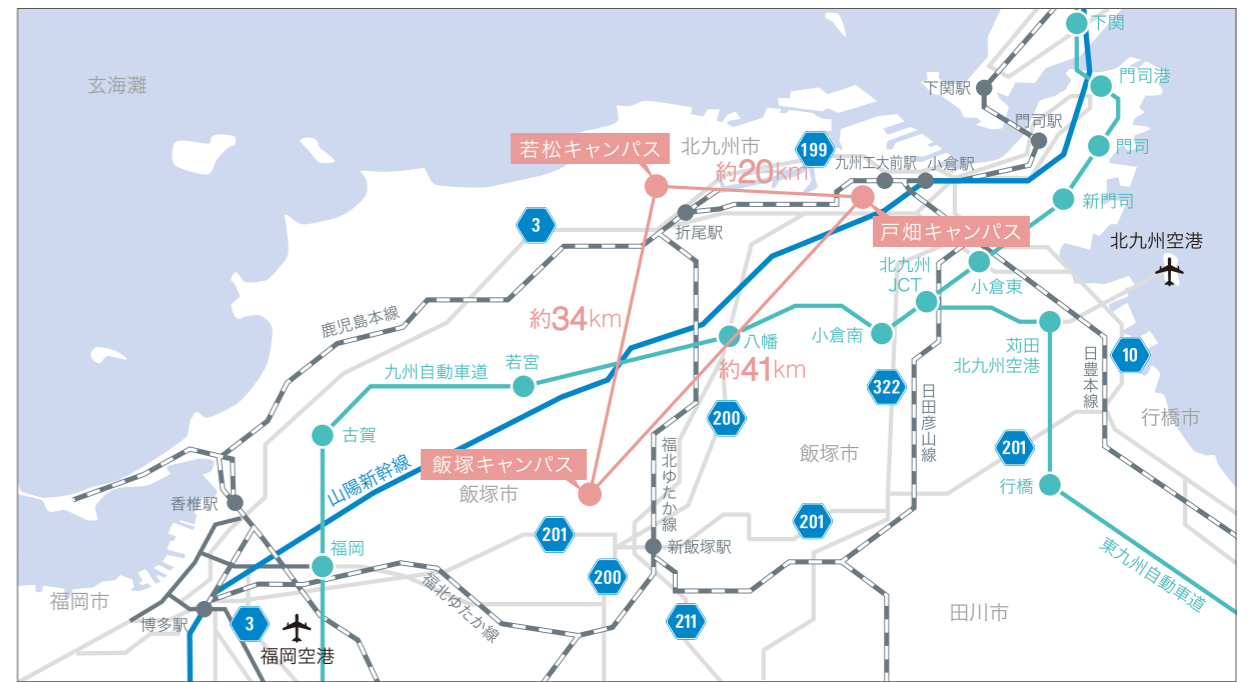
リフレッシュコーナー



談話室

地域交流ホール

# 交通案内



### 戸畑キャンパス

福岡空港 北九州空港

地下鉄 約5分

エアポートバス 約33分

JR 博多駅

JR 戸畑駅

JR 小倉駅

JR 新飯塚駅

JR 九工大前駅

工大前

工大入口

戸畑キャンパス

〒804-8550 福岡県北九州市戸畑区仙水町1番1号  
TEL:093-884-3000(代)

### 飯塚キャンパス

福岡空港 北九州空港

西鉄バス特急 約67分

西鉄バス特急 約60分

西鉄バス急行 約60分

西鉄バス急行 約55分

JR 博多駅

JR 新飯塚駅

飯塚バスターミナル

飯塚キャンパス入口

九工大

九工大 飯塚キャンパス正門前

飯塚キャンパス

〒820-8502 福岡県飯塚市川津680-4  
TEL:0948-29-7500(代)

### 若松キャンパス

北九州空港

JR 小倉駅

福岡空港

地下鉄 約5分

JR 博多駅

JR 折尾駅

折尾駅西口

学研都市ひびきの

若松キャンパス

〒808-0196 福岡県北九州市若松区ひびきの2-4  
TEL:093-695-6000(代)

# Kyutech Identity

## タグライン

### 未来を思考する「モノづくり」と「ひとづくり」

タグラインとは、『九州工業大学として、常に変わらずステークホルダーに提供するコアとなる価値を言葉にしたもの』で、九州工業大学の社会に対する約束を言葉で表現したものです。

「技術に堪能なる士君子」の養成。大学のDNAとして受け継がれる安川、山川両先生のメッセージである建学の理念を現代の言葉として紐解き、世の中に約束する九州工業大学のタグラインとしました。

## 校章

校章は校旗をもとに作成されました



校章



校旗

校旗はひろく職員、学生、卒業生の間から図案を募集し、大正13年機械科卒業生中山武夫氏の作品が選定されました。

校旗は鳳龍の旗と称され、その意義は明治専門学校を具体化させるものです。校旗制定記念絵葉書によると、「地彩の紅、黝(重いネズミ色を現す)は、鋼鉄及び鋳鉄の堅実に擬え、又工業の象徴たり。中央の形体は、龍に似て龍に非ず、鳳に似て鳳に非ず、正に之を超越せる霊体なり。眼より耳を通じて拡がる翼は、卓越せる聰明と無量の知識とを現はし、巨口に珠を含むは、光明円満の徳を以て、高く世に呼号せんとするものにして、本校の活動を意味す。」とされています。

## シンボルマーク



2009年創立100周年の節目に、  
学内公募によりシンボルマークを制定しました



これからの未来、  
これからの100年  
「動作・活動」=Action



今までの歴史、  
今までの100年  
「価値・値打ち・評価」  
=Value



未来と歴史を1本にボルトの  
モチーフでつなぎとめて、全  
体として1本の太い棒にして  
います。貫かれた大学方針  
を表しています。



学生の飛躍感や、社会・  
世界へ飛び出していく元  
気のよいイメージ。左記  
と組み合わせて、九州工  
業大学の頭文字「K」の  
形になります。



A(action)V(alue)K(yutech)の  
頭文字をユニットにし、フ  
レッシュで斬新なイメージ  
のカラー使用で、未来へ羽  
ばたいていく学生やこれか  
らをリードしていく大学を  
表現しました。

